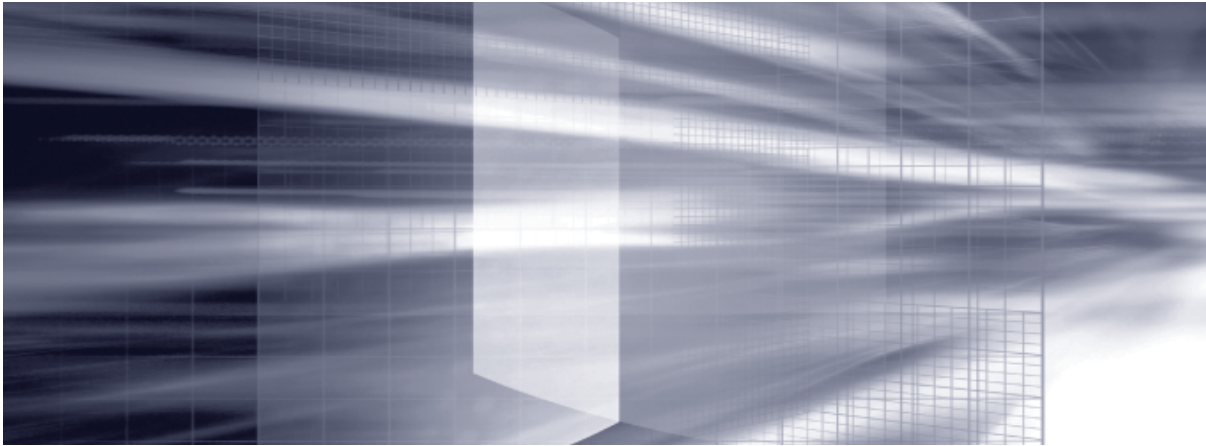


Endeavor Pro8000

ユーザーズマニュアル 補足編

Windows 7



1 コンピューターの基本操作 p.3

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について記載しています。

2 UEFIの設定 p.63

コンピューターの基本状態を管理しているプログラム「UEFI」の設定を変更する方法について記載しています。

付録 p.87

本機のお手入れ方法や HDD/SSD領域の変更方法などについて記載しています。

目次

1

コンピューターの 基本操作

製品保護上の注意.....	4
Windows 操作のヒント.....	7
マウスを使う	11
キーボードを使う.....	12
HDD/SSD の概要.....	15
RAID 機能.....	18
インテル・スマート・レスポンス・テクノロジー (ISRT) ...	26
光ディスクメディアを使う	27
メモリーカードを使う	34
USB 機器を使う	38
画面表示機能	40
サウンド機能	41
ネットワーク機能.....	46
インターネットを使用する際のセキュリティ対策...	50
省電力機能	56
そのほかの機能.....	61

2

UEFI の設定

UEFI の設定を始める前に.....	64
UEFI Setup ユーティリティの操作.....	65
UEFI Setup ユーティリティの設定項目	78

付録

お手入れ	88
HDD/SSD 領域の変更.....	89
コンピューターを廃棄するときは.....	93

1

コンピューターの基本操作

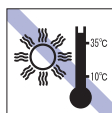
キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について記載しています。

製品保護上の注意.....	4
Windows 操作のヒント.....	7
マウスを使う	11
キーボードを使う.....	12
HDD/SSD の概要.....	15
RAID 機能.....	18
インテル・スマート・レスポンス・テクノロジー (ISRT) ...	26
光ディスクメディアを使う	27
メモリーカードを使う	34
USB 機器を使う	38
画面表示機能	40
サウンド機能	41
ネットワーク機能.....	46
インターネットを使用する際のセキュリティー対策 ...	50
省電力機能	56
そのほかの機能.....	61

製品保護上の注意

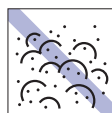
使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。

故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は 10℃～35℃です。



ホコリの多い所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。



温度が低い場所から温度が高い場所へ本機を急に移動させると、結露が発生する場合があります。

結露したまま本機を使用すると、故障、誤動作の原因となります。

結露が発生した場合は、本機が室温と同じくらいの温度になるのを待ってから、使用してください。



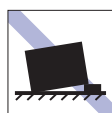
直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。

故障、誤動作の原因となります。

また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



不安定な所には設置しないでください。

落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。

電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリー上から消えてしまいます。



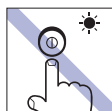
コンピューターを設置する際は、マニュアルで指示されている以外の置き方をしないでください。

故障、誤動作の原因となります。



本機の上には重い物を載せないでください。

重圧により、故障や誤動作の原因となります。



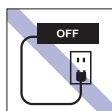
アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。

変色や変形の可能性があります。

柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。電源を切っても、本機内部に微小な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。

内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。
配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。
衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



無停電電源装置（UPS）を使用する場合は、正弦波出力のUPSを使用してください。正弦波出力以外のUPSを使用すると、本機が起動できなくなったり、動作が不安定になったりする場合があります。

記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

記録メディアの種類

CD 光ディスクメディア **MC** メモリーカード

記録メディアの種類を指定していない注意事項は、すべての記録メディアに適用されます。



直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。



上に物を載せないでください。



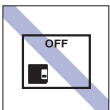
キズを付けないでください。



クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。
CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。
CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。
CD



シールを貼らないでください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。

内側から外側に向かって拭いてください。

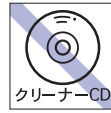
CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。

クリーニングするときは、CD 専用クリーナーを使ってください。

CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングする CD は使わないでください。

CD



金属端子には触れないでください。

MC



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

MC



金属端子にホコリや水を付けしないでください。

シンナーやアルコールなどの溶剤を近づけないでください。

MC

マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。



レンズ部分に触れないでください。



落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。

Windows 操作のヒント

Windows 操作についてのヒントを記載します。

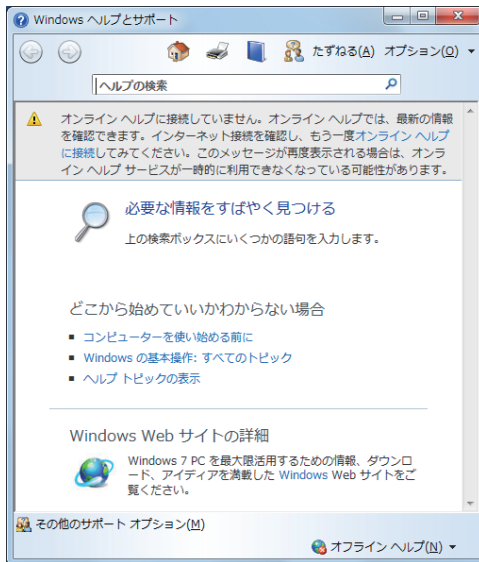
Windows 7の使用方法

Windows 7 の使用法は、次をご覧ください。

● ヘルプとサポート

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] - 「ヘルプとサポート」

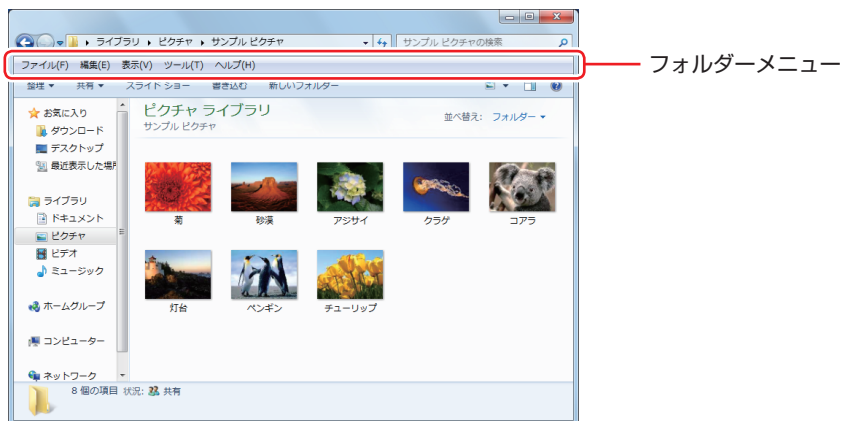


● 「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」



フォルダーメニューの表示

「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューは、標準では表示されません。フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]** を押します。もう一度 **[Alt]** を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の場所で設定します。

[スタート] - **[コントロールパネル]** - **[デスクトップのカスタマイズ]** - **[フォルダーオプション]** - **[表示]** タブ - **[常にメニューを表示する]**

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成すると便利です。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windows をユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

[スタート] - **[コントロールパネル]** - **[ユーザーアカウントと家族のための安全設定]** - **[ユーザーアカウント]** - **[別のアカウントの管理]** - **[新しいアカウントの作成]**

※ユーザー名は半角英数字を入力してください。

作成時、ユーザーに応じてユーザーアカウントの種類（権限）を設定してください。ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2つがあります。

● 管理者


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

購入時やリカバリー時の Windows のセットアップで入力したユーザー名（アカウント）は、「管理者」になります。

● 標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントで Windows にログオンした状態を前提に記載しています。

Windows Essentials

本機には Windows Essentials の以下のソフトウェアがインストールされています。

- フォトギャラリー
- ムービーメーカー
- Windows Live メール
- Windows Live Writer
- Microsoft SkyDrive

起動方法

Windows Essentials の各ソフトウェアは、次の場所から起動します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】

使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次の場所をご覧ください。

- 各ソフトウェアのヘルプ
- Windows Live ポータルサイト
<http://windowslive.jp.msn.com/>
- Windows Essentials のヘルプと使い方
<http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows-live/essentials-help-center>

Windows Live ID を作成する

Windows Live を使用するには、Windows Live ID (Microsoft アカウント) が必要になります。

サポートについて

Windows Live のサポートは、マイクロソフト社で行っています。
サポートの詳細は、次の Web ページをご覧ください。

<http://support.live.com>

Windows XP Mode(Windows 7 Ultimate/Professionalのみ)

Windows XP Mode を使用すると、Windows 7 上で Windows XP を起動し、Windows XP のアプリケーションを動作させることができます。

起動方法

Windows XP Mode は、次の場所から起動します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【Windows Virtual PC】 - 【Windows XP Mode】

※ 初回起動時はセットアップ画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。詳しいセットアップ手順は次の場所をご覧ください。



【PC お役立ちナビ】 - 画面下【ユーザーサポート】 - FAQ 番号：29149

マウスを使う

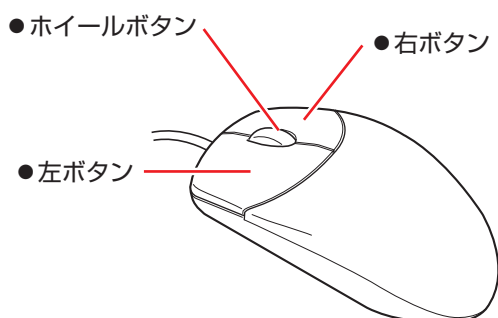
ここでは、一般的なマウスについて説明します。

マウスのマニュアル（冊子またはPDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

マウスの操作

！ 制限

- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- ソフトウェアによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。
- 本機が省電力状態や電源を切った状態であっても、マウスによっては底面のランプが光り続けます。これは、お使いのマウスの仕様です。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【ハードウェアとサウンド】 - 【マウス】

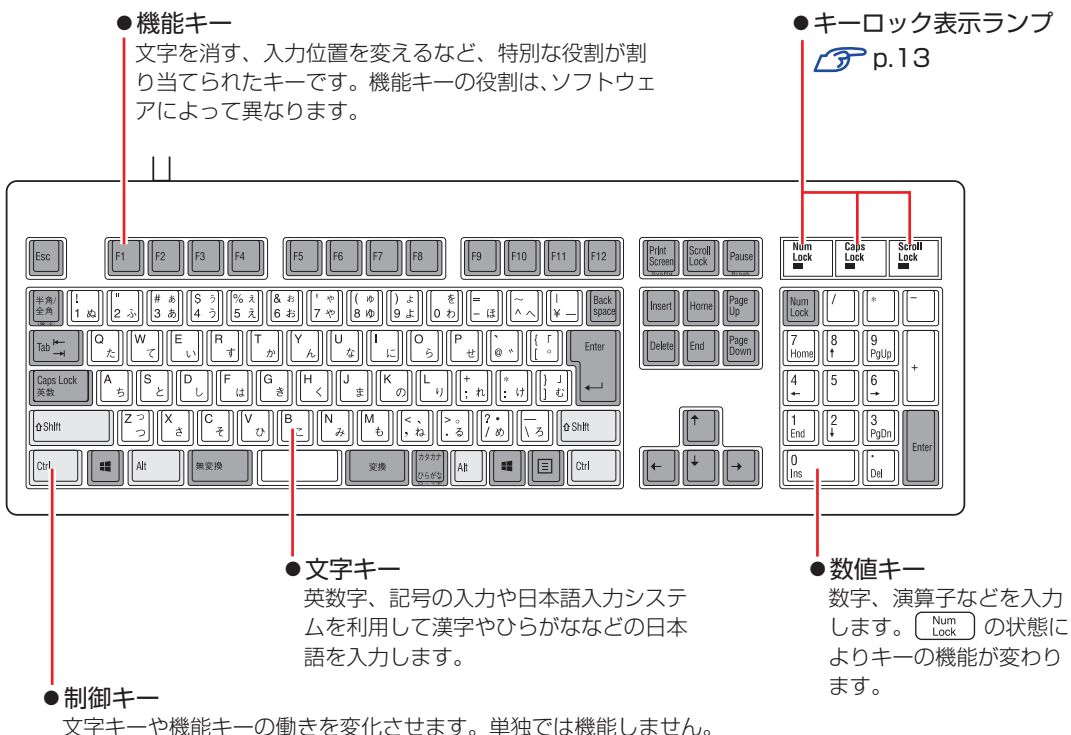
キーボードを使う

ここでは、一般的なキーボードについて説明します。

キーボードのマニュアル（冊子またはPDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。




文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。

入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには


ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IME の使い方

MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。

● **入力モード**
入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

● **ヘルプ**
MS-IME の詳しい説明を見ることができます。



● **かなキーロック**
日本語入力モードの切り替えを行います。

ボタンが押されていない状態	ローマ字入力
ボタンが押されている状態	かな入力

MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムのマニュアルをご覧ください。

キーロック表示ランプ

キーボード右上の 3 つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字 / 小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

PS/2 キーボードからの起動

PS/2 キーボードでは、設定されているキーを押すと、次のようなことができます。



- 本機の電源を入れる
- 本機を省電力状態から復帰させる

 p.59 「省電力状態からの復帰方法」


制限

- この機能は、USB 接続のキーボードでは使用できません。
- 電源切断時に、正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。

購入時、本機は  キー*で起動できるように設定されています。

 +  で起動する場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目で設定変更してください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」－「Power On By PS/2 Keyboard」

 p.65 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.80 「Power メニュー画面」

* 106 PS/2 コンパクトキーボード（ホットキー付）にのみ搭載されています。

HDD/SSD の概要

本機には、記憶装置として HDD または SSD* が搭載されています。

* HDD よりも高速にデータの読み書きができる記憶装置です。

！ 制限

- HDD/SSD アクセスランプ点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点滅中は、コンピューターが HDD/SSD に対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD/SSD 内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると HDD/SSD が故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- HDD/SSD が故障した場合、HDD/SSD のデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDD/SSD に記録されている重要なデータは、光ディスクメディアや外付け HDD などにバックアップしておくことをおすすめします。万一 HDD/SSD の故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」 - 「カテゴリから選ぶ」 - 「Windows の操作」
- 「バックアップ」

購入時のHDD/SSD領域

購入時の HDD/SSD は、お客様の選択により次のように設定されています。

※ RAID キット選択時は、2 台または 4 台の HDD/SSD で 1 台目の状態が設定されています。

※ ISRT キット選択時、SSD はキャッシュメモリー用に設定されています。

※すべてのドライブは NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。

通常

HDD/SSD	ドライブ (領域)	容量
1 台目	消去禁止領域	約 500MB
	C ドライブ	残り
2 台目以降 (オプション)	D ~	1 台につき 1 台すべて

HDD/SSD 設定変更サービスを選択された場合

HDD/SSD	ドライブ (領域)	容量
1 台目	消去禁止領域	約 500MB
	C ドライブ	購入時に選択された容量
	D ドライブ	残り
2 台目以降 (オプション)	E ~	1 台につき 1 台すべて



参考

HDD/SSD 設定変更サービス

HDD/SSD 設定変更サービスとは、1 台目の HDD/SSD の領域を C ドライブ、D ドライブに分割した状態でコンピューターをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

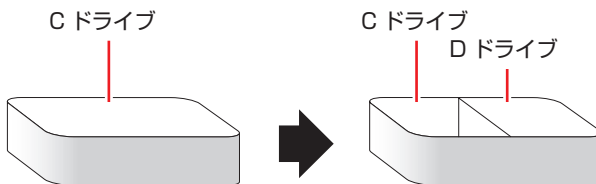
「消去禁止領域」には、Windows 回復環境 (Windows RE) が設定されています。

別冊『ユーザズマニュアル』 - 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

HDD/SSDを分割して使用する

1 台の HDD/SSD は、いくつかの領域に分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

例：1 つの HDD/SSD 領域 (C ドライブ) を 2 つの HDD/SSD 領域 (C ドライブと D ドライブ) に分割することができます。



詳しくは、 p.89 「HDD/SSD 領域の変更」をご覧ください。

HDD/SSDを増設・交換したら

HDD/SSD を増設・交換した場合は、 p.90 「HDD/SSD 領域の変更 (拡張 / 縮小 / 削除 / 作成)」をご覧ください。

※ RAID を構成する場合は、増設・交換した HDD/SSD にドライブを作成する必要はありません。ISRT 用の SSD に関してもドライブの作成は不要です。



制限

すでにデータが登録されている HDD/SSD にドライブを作成すると、その HDD/SSD に保存されていたすべてのデータが消失します。ドライブを作成する前に、重要なデータが保存されていないことを確認してください。

SSD搭載時の注意事項

SSD に対してデフラグ*を行うと、SSD の寿命（書き込み限界）を早める原因となるため、デフラグはできるだけ行わないことをおすすめします。

HDD とは異なり、SSD は、デフラグを行わなくても、データへのアクセス速度はほとんど低下しません。

* 記憶装置内のデータを再配置し、空き領域の断片化を解消すること。

SSD が搭載されている場合、定期的な自動デフラグは停止されるよう設定されていますが、Windows の再インストールをすると、実行されるようになります。この場合は、自動デフラグを停止してください。※ ISRT 設定時、この作業は不要です。

 別冊 『ユーザーズマニュアル』 - 「自動デフラグを停止する」

RAID 機能

RAID とは、同一容量の HDD/SSD を複数台組み合わせて使用するシステムのことです。ここでは、RAID の種類や RAID の構成・削除方法などについて説明します。本機では、次の場合に RAID 機能を使用することができます。

- 購入時、RAID キットを選択された場合
搭載の HDD/SSD であらかじめ RAID が構成されています。
- 同一容量の HDD/SSD を 2 台または 4 台装着している場合
RAID を構成して使用することができます。

RAID の種類

本機で使用できる RAID は、次の 3 種類です。

種類	別名	HDD/SSD 必要台数	特徴
RAID0	ストライピング	2 台	2 台の HDD/SSD を 1 つに結合して使用。大容量のデータを高速に書き込むことができる。
RAID1	ミラーリング	2 台	2 台の HDD/SSD に同時に同じデータを書き込む。一方の HDD/SSD が破損しても、もう一方の HDD/SSD からデータを復旧することができる。
RAID10	ミラーリング + ストライピング	4 台	ミラーリング (RAID1) した HDD/SSD を ストライピング (RAID0) して使用。

RAID の構成・削除・修復

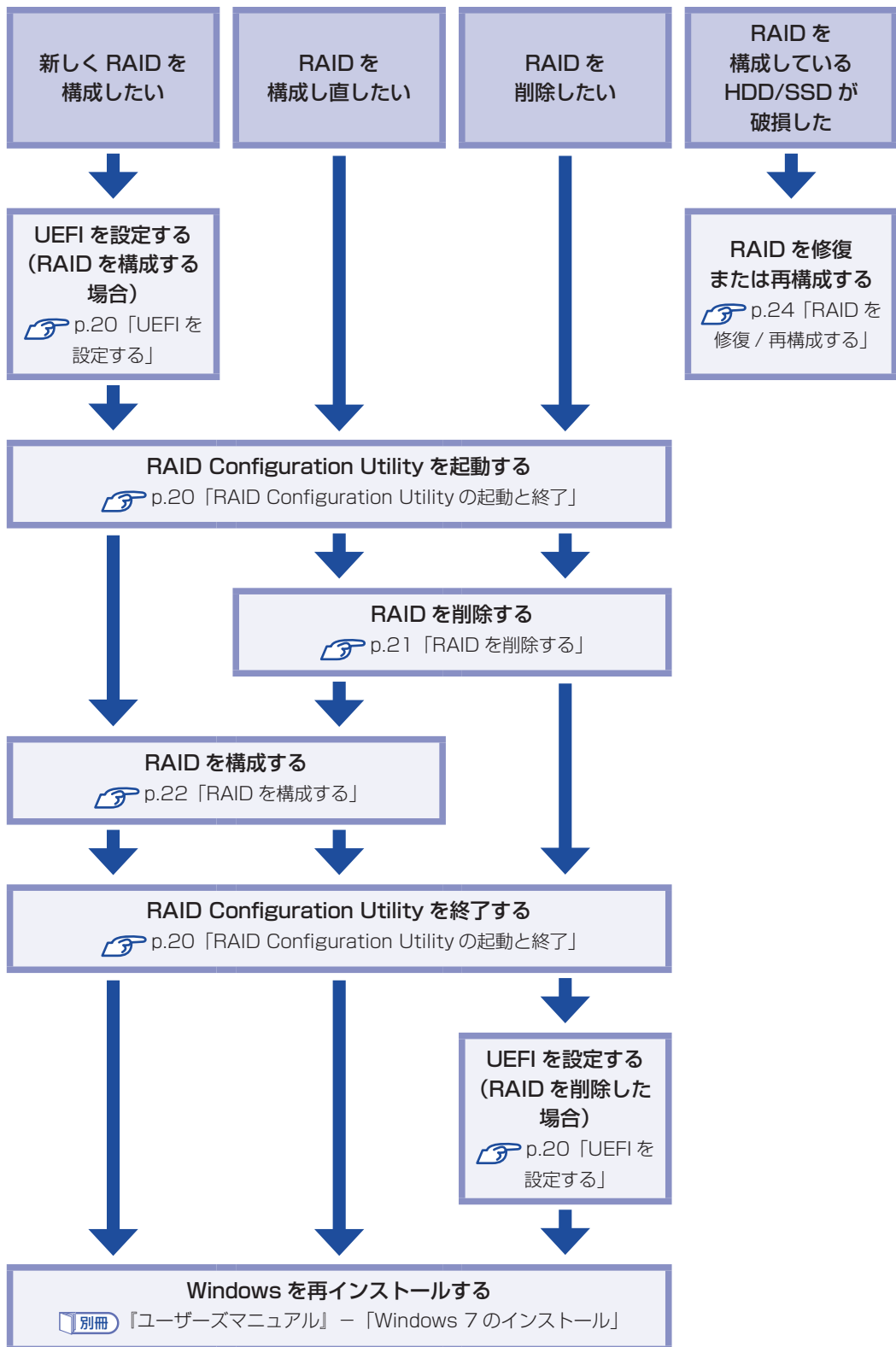
RAID の構成・削除・修復方法を説明します。



RAID の構成・削除をすると、HDD/SSD に収録されているデータはすべて消失します。RAID の構成・削除をする前に、重要なデータをバックアップしてください。

RAID の構成・削除・修復の流れ

次の流れに従って、RAID の構成・削除・修復を行ってください。



UEFI を設定する


RAID を構成・削除する場合は、UEFI の設定が必要です。

RAID を構成する場合

RAID を構成する場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定値を次のように変更してください。RAID キットを選択された場合は、あらかじめ「RAID」に設定されています。

「Main」メニュー画面－「SATA Configuration」

「Configure SATA As」：[RAID]

 p.65 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.78 「Main メニュー画面」

RAID を削除した場合

RAID を削除した後、RAID 機能を使用しない場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定値を次のように変更します。

「Main」メニュー画面－「SATA Configuration」

「Configure SATA As」：[AHCI]

 p.65 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.78 「Main メニュー画面」

RAID Configuration Utility の起動と終了

RAID Configuration Utility の起動、終了方法は次のとおりです。

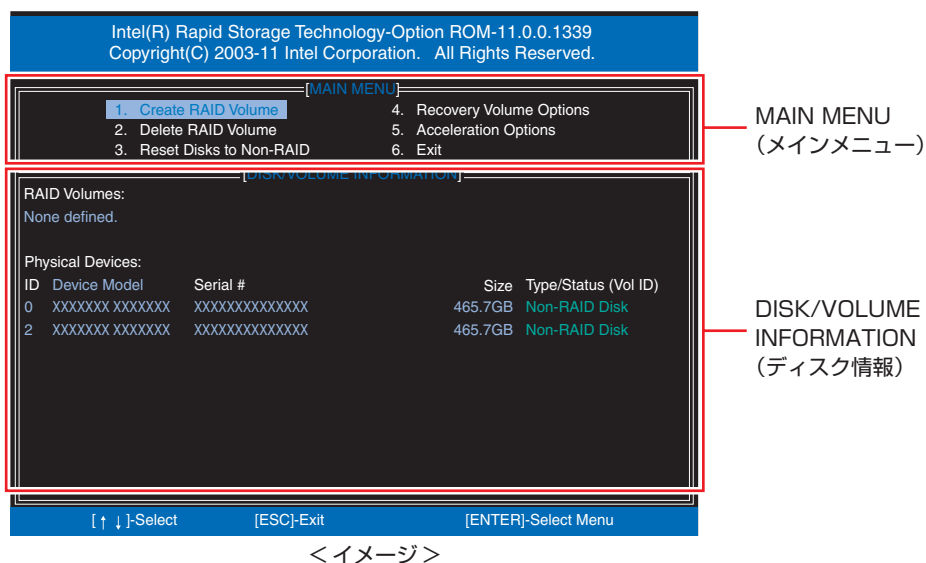
起動

- 1** キーボードの **Ctrl** と **I** の位置を確認します。
3 では、「Press < CTRL-I > to…」のメッセージが表示されている間に、すばやく **Ctrl** + **I** を押す必要があります。
- 2** 本機の電源を入れます。
すでに電源が入っている場合は、再起動します。

- 3** 画面に「Press < CTRL-I > to enter Configuration…」と表示されたら、すぐに **[Ctrl] + [I]** を押します。

RAID Configuration Utility が起動します。

Windows が起動してしまった場合は、再起動してやりなおしてください。



終了

- 1** 「MAIN MENU」項目で「6.Exit」を選択し、**[↵]** を押します。

項目の移動は **[↑]** **[↓]** で行います。

- 2** 次の確認メッセージが表示されたら、**[Y]** を押します。

Are you sure you want to exit ? (Y/N)

RAID Configuration Utility が終了します。

RAID を削除する

RAID を構成しないうちや、RAID 機能を使用しない場合は、RAID を削除します。
RAID を削除する手順は、次のとおりです。

- 1** RAID Configuration Utility を起動します。

 p.20 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

- 2** 「MAIN MENU」画面で「2.Delete RAID Volume」を選択し、**[↵]** を押します。

- 3** 「DELETE VOLUME MENU」画面で、削除したい RAID を選択し、**[Delete]** を押します。



4 次の確認メッセージが表示されたら、**[Y]** を押します。

Are you sure you want to delete "XXX" ? (Y/N)

RAID が削除され、「MAIN MENU」画面が表示されます。「DISK/VOLUME INFORMATION」の「RAID Volumes:」で RAID が削除されたことを確認します。

5 RAID Configuration Utility を終了します。

 p.20 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

これで、RAID の削除は完了です。

続いて RAID を構成しない場合は、UEFI の設定値を変更し、Windows のインストールを行ってください。

 p.20 「UEFI を設定する」

 『別冊』『ユーザーズマニュアル』 - 「Windows 7 のインストール」

RAID を構成する

本機で構成できる RAID は、RAIDO、RAID1、RAID10 です。

RAID を構成する手順は、次のとおりです。



制限

RAID を構成すると、HDD/SSD に収録されているデータはすべて消失します。
RAID を構成する前に、重要なデータをバックアップしてください。

1 RAID Configuration Utility を起動します。

 p.20 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

2 「MAIN MENU」画面で「1.Create RAID Volume」を選択し、**[↵]** を押します。

3 「CREATE VOLUME MENU」画面が表示されたら、[Name] に任意の名前を入力し、**[↵]** を押します。

RAID の名前を変更しない場合は、そのまま **[↵]** を押します。

4 「RAID Level」で「RAIDO (Stripe)」、「RAID1 (Mirror)」、「RAID10 (RAIDO+1)」のいずれかを選択し、**[↵]** を押します。

5 RAID0 または RAID10 の場合、「Strip Size」で **[↵]** を押します。

6 「Capacity」で **[↵]** を押します。

7 「Create Volume」が選択されている状態で **[↵]** を押します。

8 次の確認メッセージが表示されたら、**Y** を押します。


Are you sure you want to create this volume ? (Y/N)

RAID が構成され、「MAIN MENU」画面が表示されます。構成した RAID の情報を「DISK/VOLUME INFORMATION」で確認することができます。

9 RAID Configuration Utility を終了します。

 p.20 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

10 「UEFI Setup ユーティリティ」を起動し、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、「Hard Disk」が **3** で設定した名前になっていることを確認します。


 p.65 「UEFI Setup ユーティリティの起動」

11 **F10** を押して **[Yes]** を選択し、**↵** を押します。

「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、本機が再起動します。

これで RAID の構成は完了です。

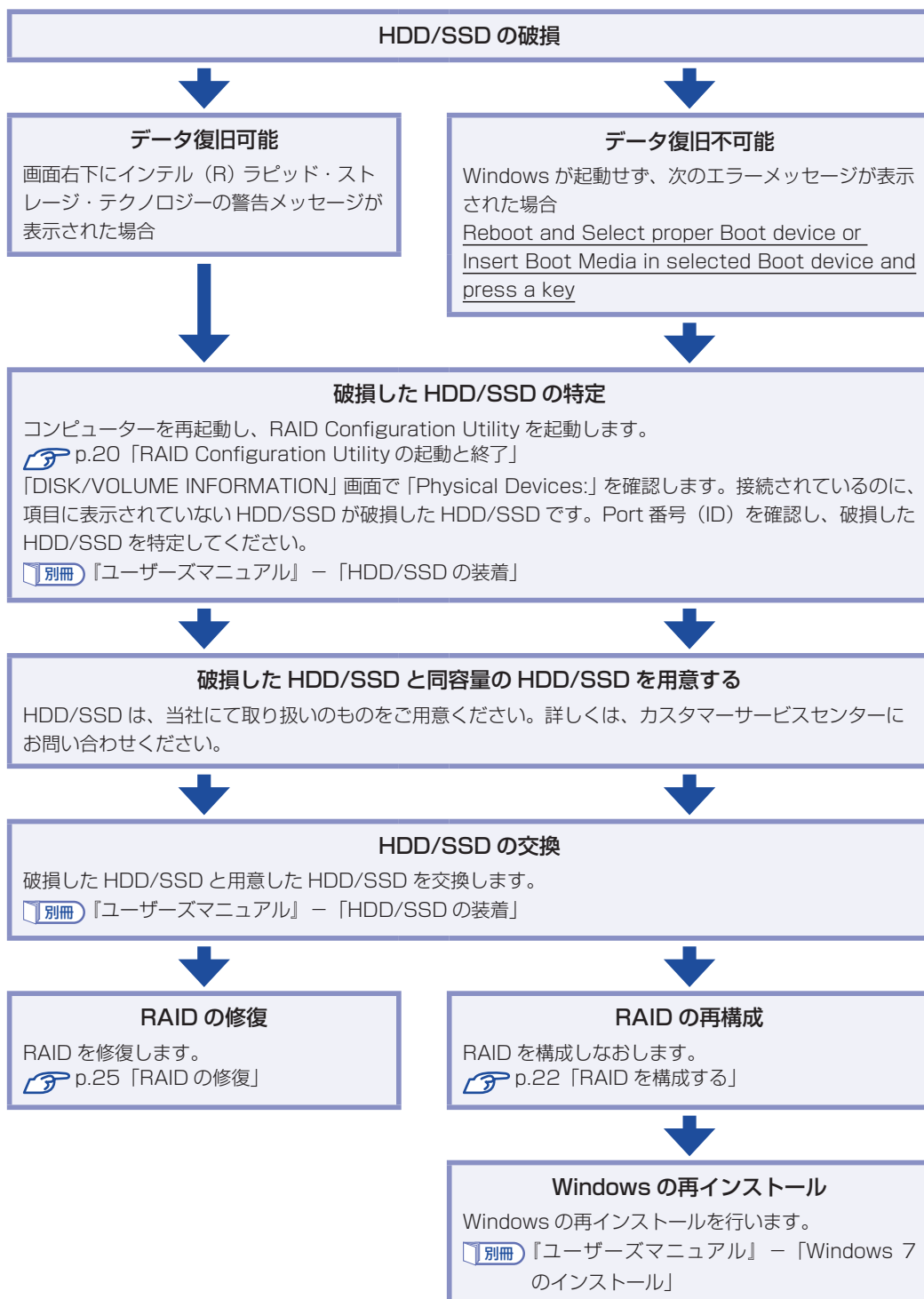
続いて Windows のインストールを行います。

 **別冊** 『ユーザーズマニュアル』－「Windows 7 のインストール」

RAID を修復 / 再構成する




RAID 構成時に HDD/SSD が破損した場合は、データの状況によって RAID の修復または再構成が必要です。

次の流れに従って、RAID を修復または再構成してください。



RAID の修復

RAID の修復は、RAID Configuration Utility で行います。
RAID の修復方法は、次のとおりです。

- 1** RAID Configuration Utility を起動します。
 p.20 「RAID Configuration Utility の起動と終了」
- 2** 「DEGRADED VOLUME DETECTED」画面が表示されたら、新しく接続した HDD/SSD を選択し、 を押します。
- 3** 「DISK/VOLUME INFORMATION」項目で、「RAID Volumes :」の「Status」項目が「Rebuild」になっていることを確認します。
- 4** RAID Configuration Utility を終了します。
 p.20 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

これで、RAID の修復は完了です。

インテル・スマート・レスポンス・テクノロジー (ISRT)

インテル・スマート・レスポンス・テクノロジー (ISRT) とは、SSD を HDD のキャッシュメモリーとして利用し、システムの読み込み性能を向上させる機能です。

購入時に ISRT キットを選択された場合は、搭載の HDD+SSD であらかじめ、ISRT が設定されています。

ISRT 設定時の本機の状態

ISRT が設定されている場合、本機は次の状態になっています。

ドライブの位置


Port0 (SATA1) : HDD (システム用)

Port1 (SATA2) : SSD (キャッシュ用)

UEFI の設定値

「Main」メニュー画面－「SATA Configuration」


「Configure SATA As」: [RAID]

 p.65 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.78 「Main メニュー画面」


IRST の設定


インテル・ラピッド・ストレージ・テクノロジー (IRST) で ISRT の設定がされています。

 『別冊』『ユーザーズマニュアル』－「再インストール後の作業」－「インテル・スマート・レスポンス・テクノロジー (ISRT) を使用する場合」

ISRT 設定時に再インストールするときは

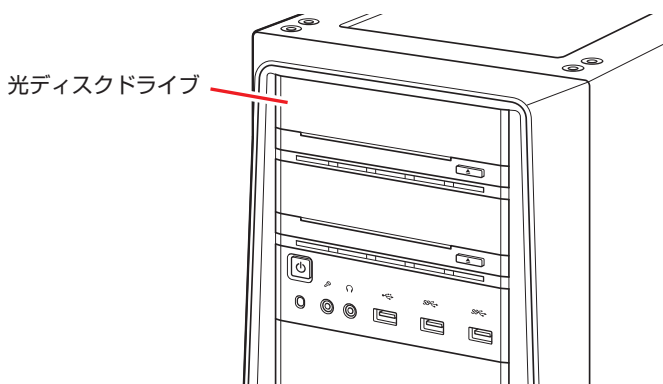
ISRT を設定している場合は、Windows の再インストール前後に SSD に対して作業が必要です。必ず作業を行ってください。

 『別冊』『ユーザーズマニュアル』－「Windows のインストール」－「インテル・スマート・レスポンス・テクノロジー (ISRT) を設定している場合」

 『別冊』『ユーザーズマニュアル』－「再インストール後の作業」－「インテル・スマート・レスポンス・テクノロジー (ISRT) を使用する場合」

光ディスクメディアを使う

本機には、購入時に選択されたシリアル ATA 仕様の光ディスクドライブが搭載されています。光ディスクドライブは、CD-ROM などの光ディスクメディアを使用するための機器です。ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



警告

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。飛び散って、けがをするおそれがあります。



注意

光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れ、挟まれないようにしてください。けがをするおそれがあります。



制限

- 光ディスクドライブを長期間使用しないと、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが開かないことがあります。定期的（3 ヶ月に 1 回程度）にイジェクトボタンを押して、ディスクトレイの開閉を行うことをおすすめします。
- 本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みや DVD の再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－【マニュアルびゅーわ】－「光ディスクドライブ取扱説明書」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－【お役立ち】

光ディスクメディアのセットと取り出し

光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

！ 制限

- アクセスランプ点滅中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 2 印刷面を上にして、光ディスクメディアをディスクトレイのくぼみにセットします。
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 アクセスランプが点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 2 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

📖 参考

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合
ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

CDメディアの読み込み・再生



光ディスクドライブでは、データ CD を読み込めるほかに、音楽 CD やビデオ CD、フォト CD などの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録された DVD メディアを読み込めるほかに、DVD VIDEO などの再生ができます。DVD VIDEO の再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO 再生ソフト

DVD VIDEO の再生には、次のソフトウェアを使用します。

- PowerDVD (Blu-ray ドライブ搭載時)  p.29
- WinDVD (Blu-ray ドライブ以外の光ディスクドライブ搭載時)  p.31

PowerDVDを使う

Blu-ray ドライブ搭載時

PowerDVD では、ビデオ CD や DVD/BD VIDEO、動画ファイル、音楽ファイルを再生することができます。

PowerDVD は、次の場所から起動します。

【スタート】 – 「すべてのプログラム」 – 「CyberLink PowerDVD10」 – 「CyberLink PowerDVD10」

PowerDVD の詳細は、起動した画面の「ヘルプ」をご覧ください。

CPRM で著作権保護された DVD メディアを再生するには

PowerDVD は CPRM で著作権保護された DVD メディアの再生に対応していますが、初回の再生時にインターネットへの接続が必要です。

初めて CPRM で著作権保護された DVD メディアを再生する際にメッセージが表示されるので、インターネットに接続してください。以降は、CPRM で著作権保護されたメディアの再生が可能になります。

デジタル出力時の制限事項

デジタル出力する場合、HDCP 規格に対応していないデジタルディスプレイには再生画像を表示できません。

BD メディアを再生するには

Blu-ray Disc (BD) は、著作権保護技術として AACS を採用しており、随時更新されています。PowerDVD にも AACS キーが内蔵されており、定期的に AACS キーを更新しないと BD メディアを再生できない場合があります。

PowerDVD の使用時に次のようなメッセージが表示されたら、内容をご確認の上、CyberLink Web サイトに接続して PowerDVD のアップデートバージョンをダウンロードし、AACS キーの更新を行ってください。

- ・「引き続きこのコンテンツを再生するには、CyberLink PowerDVD をアップデートする必要があります。」

※ AACS キーを更新する際は、インターネットに接続してください。

再生時の制限事項

BD メディアの再生には、次の制限事項があります。

- 次のディスプレイには、再生画像を表示できません。
 - ・アナログディスプレイ
 - ・ HDCP に対応していないデジタルディスプレイ
- 2 つのディスプレイに同じ画面を表示するクローン表示はサポートしていません。

PowerDVD サポート窓口

PowerDVD に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

電話番号：0570-080-110 (ナビダイヤル)

ナビダイヤルがご使用できない場合は下記番号をご利用ください。
03-5205-7670

営業時間：10:00～13:00、14:00～17:00 (土・日・祝日・休業日を除く)

カスタマーサポートページ：<http://support.jp.cyberlink.com/>

WinDVDを使う

Blu-ray ドライブ以外の光ディスクドライブ搭載時

WinDVD は、次の場所から起動します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【sMedio】 - 【sMedio WinDVD】

WinDVD の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。[F1] を押すとヘルプが表示されます。




制限

HDCP 非対応の外付けディスプレイにデジタル接続した場合、DVD VIDEO の再生はできません。

DVD VIDEO 再生時の不具合

WinDVD で DVD VIDEO の再生をすると、解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEO の再生ができないことがあります。

DVD VIDEO の再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.40 「表示に関する各種設定」

CPRM で著作権保護されたメディアを再生するには

WinDVD は CPRM で著作権保護されたメディア再生に対応していますが、再生時に必要な「CPRM Pack」がインストールされていません。

インターネットに接続後、「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストールを行ってください。

「CPRM Pack」のダウンロードとインストール

「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストール方法は、次のとおりです。

- 1** 【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【sMedio】 - 【sMedio WinDVD】をクリックし、WinDVDを起動します。
- 2** CPRM で著作権保護されたメディアを光ディスクドライブにセットします。
- 3** 「このディスクには CPRM 著作権保護のかかったタイトルが含まれています・・・」と表示されたら、内容を確認して[OK] をクリックします。
- 4** 「コーレル CPRM Pack ダウンロード用登録ページへようこそ」と表示されたら、画面の指示に従って、登録を行います。
登録が完了すると、ダウンロードページが表示されます。
- 5** ダウンロードページが表示されたら、画面の指示に従って、「CPRM Pack」のダウンロードとインストールを実行します。
インストールが完了すると、CPRM で著作権保護されたメディアの再生が可能になります。



CPRM で著作権保護されたメディアを再生する場合は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンしてください。

WinDVD ユーザーサポート情報

WinDVD に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

※下記の情報は、予告なく変更される場合があります。

sMedio テクニカルサポート、WinDVD サポート窓口

電話 : 03-5299-0030

メール : support@smedio.co.jp

営業時間 : 月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:30～17:30
(祝日、年末年始および sMedio 社指定休業日を除く)

サポートページ : <http://www.smedio.co.jp/support/>

光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－ [マニュアルびゅうわ] － 「光ディスクドライブ取扱説明書」



作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 12 Essentials」が添付されています。

 p.33 「Nero 12 Essentials の使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

●省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windows が省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.58 「時間経過で移行させない」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

●速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 – 「マニュアルびゅーわ」 – 「光ディスクドライブ取扱説明書」

Nero 12 Essentialsの使い方

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

ライティングソフト「Nero 12 Essentials」を使用すると、CD メディアや DVD メディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



制限

「Nero 12 Essentials」と Windows 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

書き込みは「Nero Express」で行います。

Nero Express は次の場所から起動します。

【スタート】 – 【すべてのプログラム】 – 【Nero】 – 【Nero 12】 – 【Nero Express】

Nero Express の詳しい使用方は、ヘルプをご覧ください。

Nero 12 Essentials ユーザーサポート情報

Nero 12 Essentials の操作などでお困りの場合は、ホームページのサポート情報をご覧ください。

※下記の情報は、予告なく変更される場合があります。

ホームページ: <http://www.nero.com/jpn/support/contact>

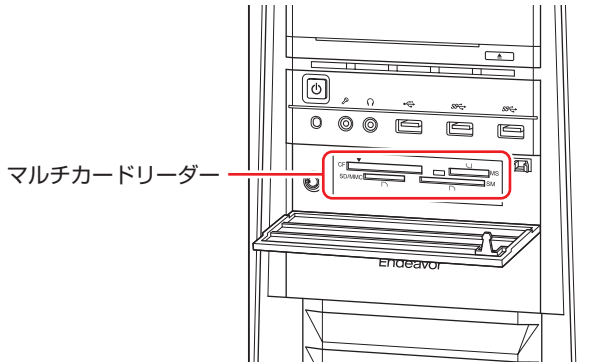
E-MAIL : 上記ホームページのサポートページからお問い合わせください。

※お問い合わせの際は、コンピューターの機種名をお知らせいただく必要があります。

メモリーカードを使う

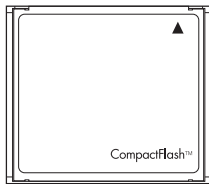
マルチカードリーダー搭載時

購入時にオプション選択された場合、本機のフロントドア内には、マルチカードリーダーが装備されています。

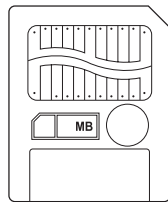


使用可能なメモリーカード

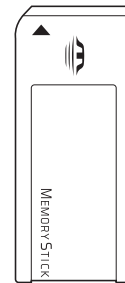
本機で使用できるメモリーカードは次の5種類です。イラストは各メモリーカードのイメージです。



<コンパクトフラッシュ>



<スマートメディア>



<メモリースティック>
※ PRO / PRO-HG 対応



<SDメモリーカード>
※ SDHC / SDXC 対応




<マルチメディアカード>

制限

- ・著作権保護機能には対応していません。
- ・I/O カードは使用できません。
- ・スマートメディアの5Vタイプのカードは使用できません。3.3Vタイプ（3Vと表示されているものも可）のみサポートしています。

メモリーカード使用時の注意

メモリーカードは、次の点に注意して正しく使用してください。

- マルチカードリーダーアクセスランプ点滅中にメモリーカードを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。メモリーカード内のデータが破損する恐れがあります。
- 記録されているデータによっては、読み込み時に専用のソフトウェアが必要になる場合があります。詳しくは、データを作成した周辺機器またはソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- データの書き込み中に電源の供給が停止すると、メモリーカードに不具合が発生する可能性があります。メモリーカードを使用するときは、省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.58 「時間経過で移行させない」

メモリーカードのフォーマット

メモリーカードのフォーマットは、必ずメモリーカードを使用するデジタルカメラなどの周辺機器側で行ってください。本機でフォーマットを行うと、周辺機器でメモリーカードが認識されなくなる場合があります。

フォーマットの方法は、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

メモリーカードのセットと取り出し

メモリーカードのセットと取り出し方法、割り当てられるドライブについて説明します。

メモリーカードのセット

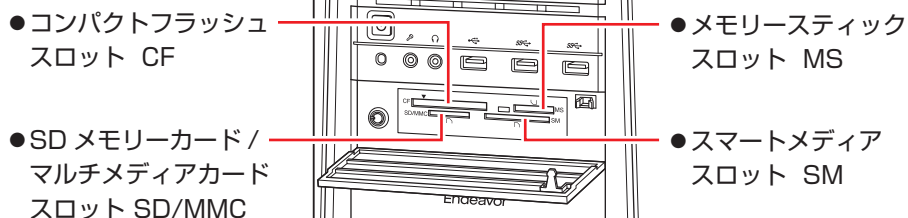
メモリーカードのセット方法は次のとおりです。



制限

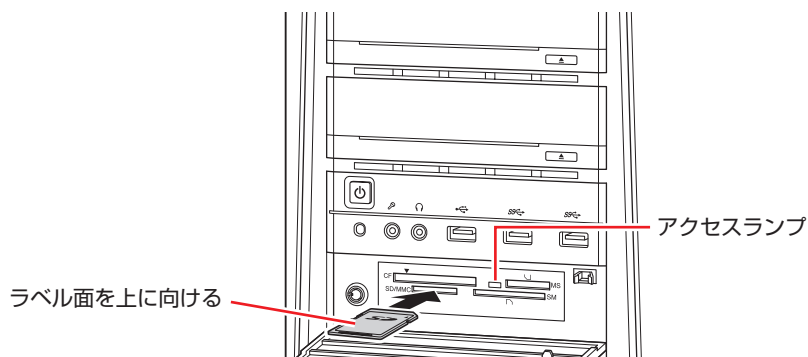
本機にメモリーカードをセットした状態で電源を入れたり、再起動したりすると、Windows が起動しないことがあります。メモリーカードはWindows 起動後にセットしてください。

1 フロントドアを開け、使用するメモリーカードのスロット位置を確認します。



2 メモリーカードのラベル面を上（端子面を下）に向け、対応するスロットにカードを差し込みます。

正しくセットされるとアクセスランプが点灯します。



メモリーカードによっては、正しくセットされていてもスロットから数 cm 出たままのものもあります。

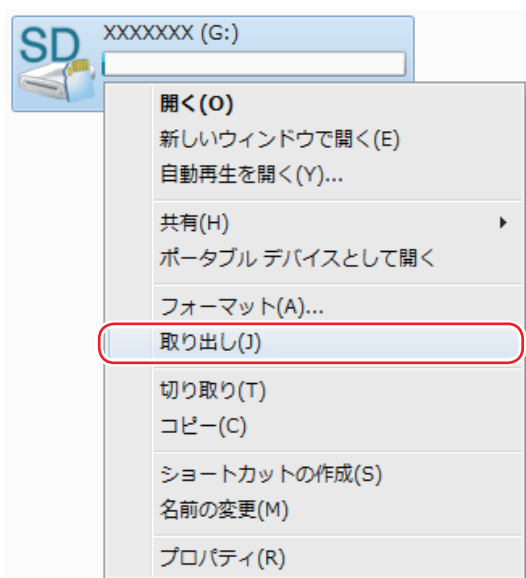
メモリーカードの取り出し

メモリーカードの取り出し方法は、次のとおりです。

1 メモリーカードの終了処理を行います。

本機の電源を切っている場合は、終了処理は不要です。2に進みます。

- 1 開いているファイルを閉じます。
ファイルを閉じないと、終了処理ができません。
- 2 マルチカードリーダーのアクセスランプが点滅していないことを確認してから、[スタート] - 「コンピューター」 - 「取り出すメモリーカードのアイコン」を右クリックし、「取り出し」をクリックします。



2 メモリーカードを取り出します。

取り出したメモリーカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

USB 機器を使う

本機には次の USB コネクタが搭載されています。

- USB2.0 コネクタ (前面× 1、背面× 6)
- USB3.0 コネクタ (前面× 2、背面× 2)

※ 転送速度は、本機のコネクタと接続する USB 装置の組み合わせによります。

制限

- USB フラッシュメモリーや USB HDD などの USB 記憶装置を接続している状態で本機の電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。
- USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動したい場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
[p.76 「起動 \(Boot\) デバイスの順番を変更する」](#)
- 接続した USB 機器によっては、本機の電源を切った状態でも、ランプが光り続けます。これは、お使いの USB 機器の仕様です。

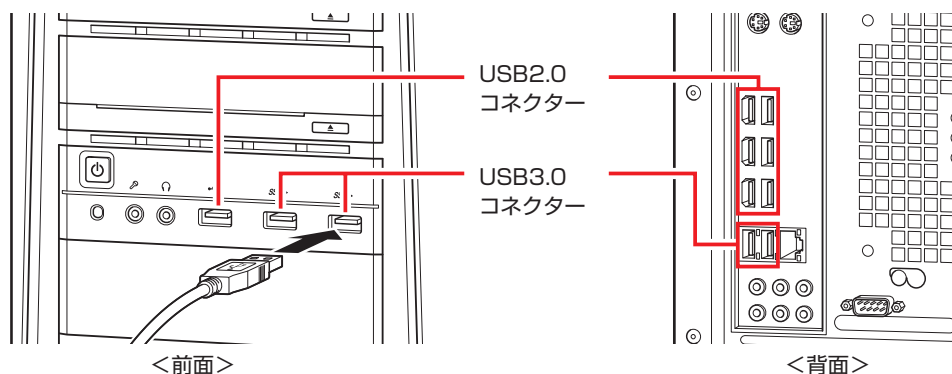
USB機器の接続と取り外し

USB 機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

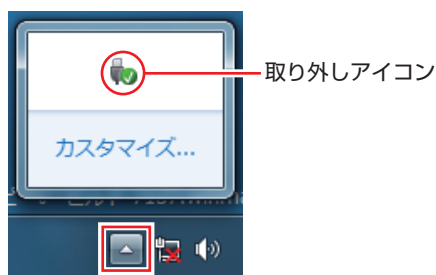
接続

USB 機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB 機器の USB コネクタを、本機の USB コネクタに接続します。



- 2 USB 機器によっては、通知領域 - [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されます。



接続する USB 機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

USB 機器の取り外し

USB 機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- そのまま取り外す

通知領域－ [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

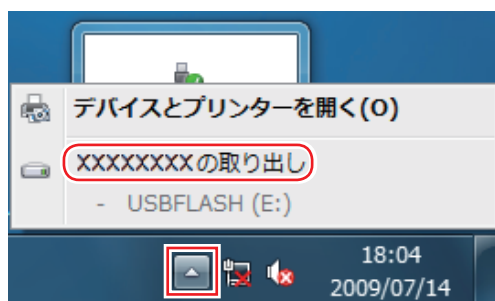
- USB 機器の終了処理をして取り外す

通知領域－ [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB 機器の終了方法は次のとおりです。

1 「通知領域」－ [△] － 「取り外し」アイコン－ 「(取り外したいUSB 機器) の取り出し」をクリックします。

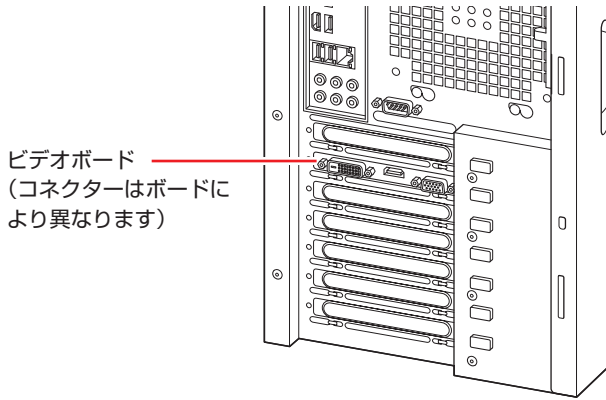
複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



2 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB 機器を本機から取り外します。

画面表示機能

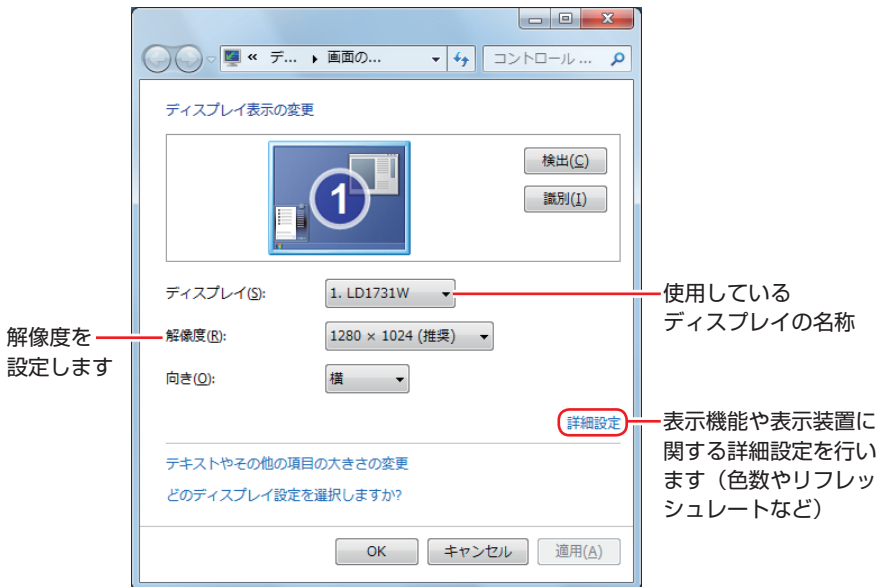
本機では、拡張スロットに装着されているビデオボードの機能を使用して画面表示を行います。搭載されているコネクタや画面設定のユーティリティはビデオボードにより異なります。ビデオボードにマニュアルが添付されている場合は、本書と合わせてご覧ください。



表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は次の場所で行います。

デスクトップ上の何も無いところで右クリック「画面の解像度」



サウンド機能

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。

本機にスピーカーは内蔵されていません。音声を出力するには、スピーカーを接続する必要があります。

オーディオ機器の接続

本機には、オーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。

各コネクタの位置は、次のとおりです。

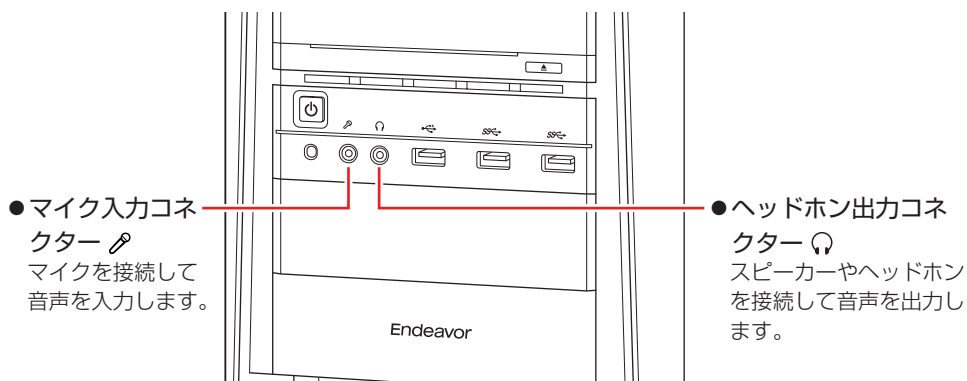


注意

ヘッドホンやスピーカーは、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。


前面





参考


使用できるマイク


マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。


- **ライン入力コネクタ**（水色）

オーディオ機器を接続して音声を入力します。
- **フロントスピーカー / ライン出力コネクタ**（黄緑色）

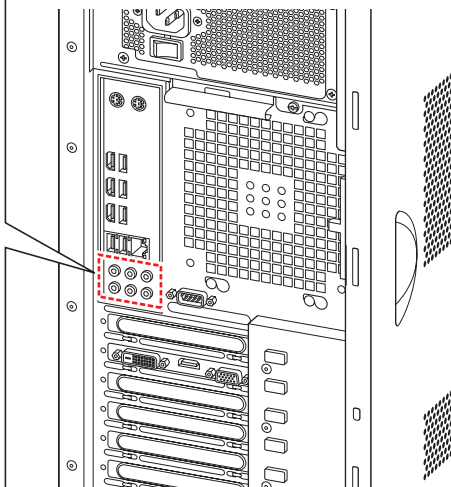
フロントスピーカーやヘッドホンを接続して音声を出力します。
通常、スピーカーはこのコネクタに接続します。
- **マイク入力コネクタ**（ピンク色）

マイクを接続して音声を入力します。
- **サイドスピーカー出力コネクタ**（灰色）

サイドスピーカーを接続して音声を出力します。
- **センタースピーカー / サブウーファー出力コネクタ**（オレンジ色）

センタースピーカー、サブウーファーを接続して音声を出力します。
- **リアスピーカー出力コネクタ**（黒色）

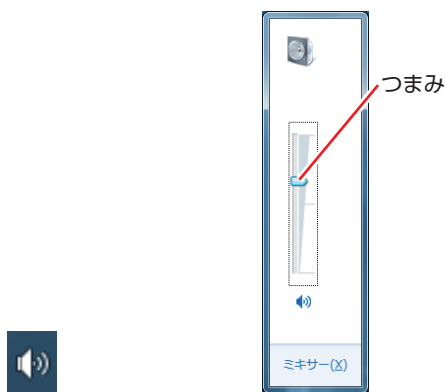
リアスピーカーを接続して音声を出力します。



音量の調節

スピーカーを接続していて、Windows 起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコン（白色）をクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。

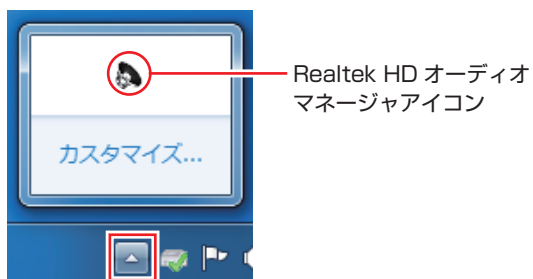


<スピーカーアイコン> <ボリュームコントロール>

サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域 - [△] 内の「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコンをダブルクリックします。



次の画面が表示されます。



※ 「スピーカー」、「マイク」など、項目のタブは、機器接続時のみ表示されます。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。



録音時に音量を調節しても音が小さいときは、マイクブーストの音量を上げてください。

音声出力先の設定

本機にスピーカーは内蔵されていませんが、スピーカーを接続すると、音声出力先はスピーカーに設定されます。

選択したビデオボードに HDMI コネクタがある場合、スピーカーを接続している状態でビデオボードの HDMI コネクタに接続したディスプレイから音声を出力するには、音声出力先の変更が必要です。

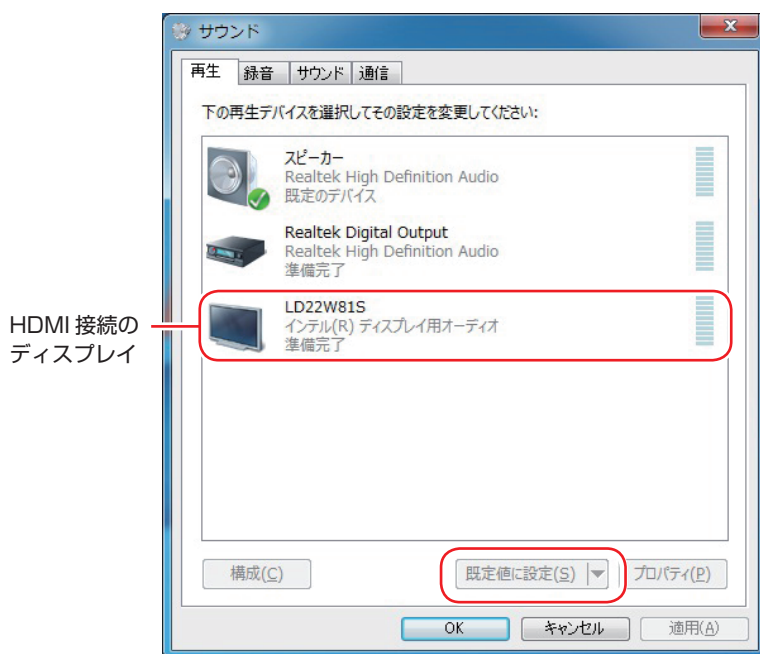
HDMI 接続のディスプレイ使用時

音声出力先の変更手順は、次のとおりです。

1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「ハードウェアとサウンド」 – 「サウンド」をクリックします。

2 「サウンド」画面が出力されたら、「再生」タブで HDMI 接続のディスプレイを選択し、[既定値に設定] をクリックします。

※ HDMI コネクタのデバイス名は、ビデオボードやディスプレイにより異なります。



<イメージ>

音声出力先に設定されると、デバイスにチェックが付きます。


3 [OK] をクリックします。

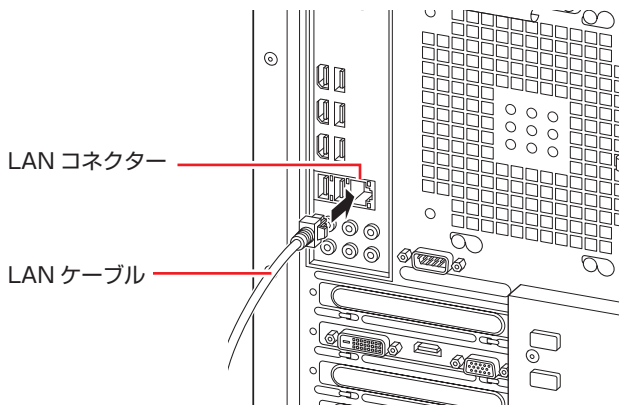
これで設定は完了です。HDMI 接続のディスプレイから音声が出力されます。

ネットワーク機能

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（有線 LAN）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面の LAN コネクタ（）に市販の LAN ケーブルを接続します。




ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LAN ケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows 上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器のマニュアルなどをご覧ください。

！ 制限



- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - 再起動する
 - 省電力状態に移行しないように設定する
 p.58 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

インターネットへの接続

インターネットへの接続は、プロバイダーから提供されたマニュアルを参照して行ってください。

そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次の機能を使用できます。

- Wakeup On LAN  p.47
- リモートブート  p.49

Wakeup On LAN

Wakeup On LAN を使用すると、シャットダウン状態やスリープ状態、休止状態のときに、ネットワークからの信号により本機を起動することができます。

休止状態およびシャットダウン状態から起動させる



シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。

休止状態およびシャットダウン状態から Wakeup On LAN を行う場合は、次の作業が必要です。


- UEFI の設定変更
- ネットワークアダプターの設定確認（シャットダウン状態からの起動時のみ必要）

UEFI の設定変更

「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Resume By Onboard LAN」：[Enabled]（有効）

 p.65 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.80 「Power メニュー画面」

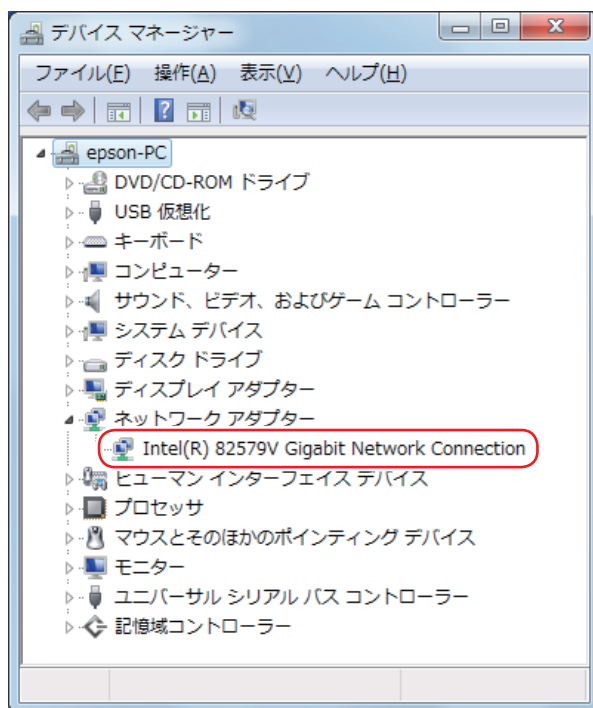
ネットワークアダプターの設定確認

シャットダウン状態から起動させたい場合、ネットワークアダプターの設定を確認してください。確認方法は、次のとおりです。

- 1** 「スタート」－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「デバイスマネージャー」をクリックします。



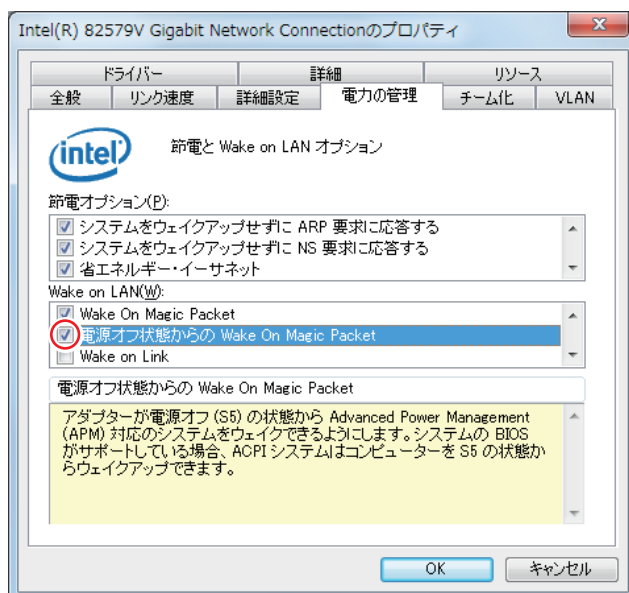
- 2** 表示された「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、「Intel (R) 82579V・・・」をダブルクリックします。



<イメージ>

- 3** 表示された「Intel (R) 82579V・・・」画面の「電力の管理」タブをクリックします。

- 4** 「電源オフ状態からの Wake On Magic Packet」にチェックが付いていることを確認します。



5 をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

これで、確認作業は完了です。



参考

WakeUp On LAN を設定している場合

UEFI の設定で、WakeUp On LAN (Resume By Onboard LAN) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上から Windows をインストールすることができます。

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうる、コンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対する、セキュリティー機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機の Windows の状態を確認し、Windows の更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。

Windows を最新の状態にするため、Windows Update を行ってください。

自動更新の設定

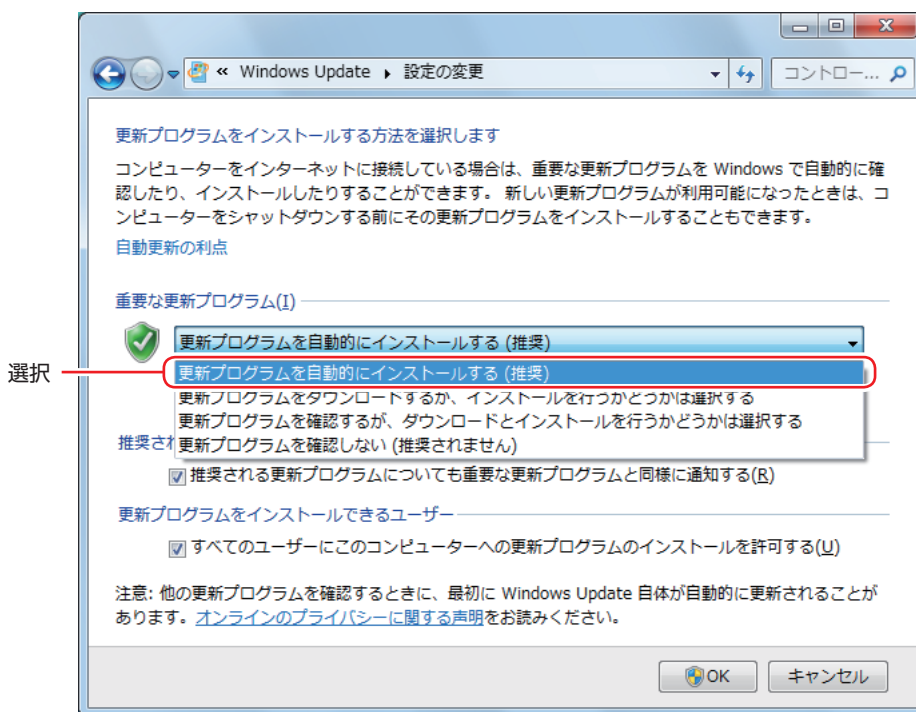
本機を使用する際は、自動で Windows Update が行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムのダウンロードとインストールが自動で行われます。

Windows のセットアップ中に「コンピューターの保護と…」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

【スタート】－「すべてのプログラム」－「Windows Update」－「設定の変更」



セキュリティソフトウェア

インターネットに接続する場合は、コンピューターウイルス感染や不正アクセスを防ぐため、セキュリティソフトウェアを必ず使用してください。

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能を備えた「マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版」が添付されています。

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版のインストール

購入時、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版はインストールされていません。

インストールは、Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」から行います。ツールは次の場所から起動することができます。


【スタート】－「すべてのプログラム」－「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

 別冊『ユーザーズマニュアル』－「ドライバー / ソフトウェアのインストール」

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をインストールしないでください。

マカフィー・PC セキュリティセンターのユーザー登録

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を使用するには、ユーザー登録が必要です。インターネットに接続後、画面右下、通知領域の McAfee アイコン () をダブルクリックして、ユーザー登録を行ってください。

※ McAfee アイコンが表示されていない場合は、本機を再起動してください。

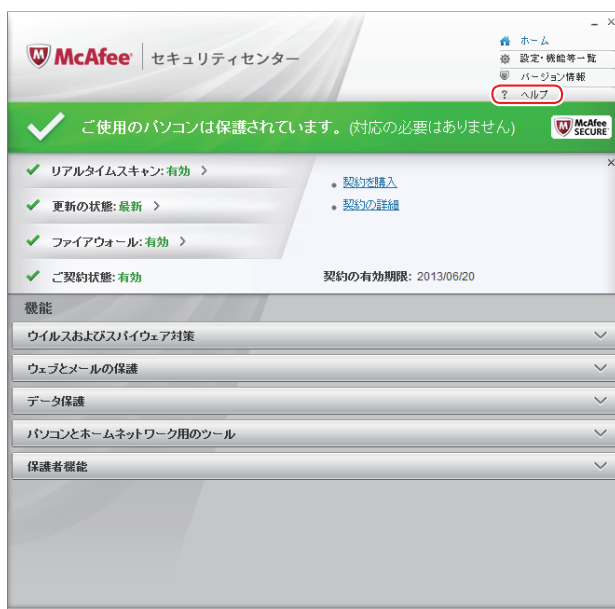


制限

ユーザー登録を行わないと、製品の更新ができません。また、サポートセンターへの問い合わせにもユーザー登録が必要です。登録しないまま 2 週間以上経過すると、ソフトウェアの自動更新が停止し、最新のセキュリティで保護されなくなります。

マカフィー・PC セキュリティセンターの使用方法

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の使用方法は、「ヘルプ」をご覧ください。



Windows のセキュリティー機能の設定

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版には Windows のセキュリティー機能と同等の機能が備えられています。マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版がインストールされていると、次の Windows の機能は「無効」に設定されます。

- Windows ファイアウォール
- Windows Defender

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の機能によりコンピューターのセキュリティーは守られていますので、Windows の機能は「無効」のままお使いください。

マカフィー・PC セキュリティセンターを一時的に無効にするには

お使いのソフトウェアなどで、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を「無効」にするよう指示があった場合は、一時的にマカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の機能を「オフ」にします。手順は、「ヘルプ」で確認してください。

機能を「オフ」にすると、セキュリティーが確保されなくなります。安全を十分に確認した上で設定し、作業が終わったら、必ず「オン」に戻してください。

マカフィー・PC セキュリティセンターのアンインストール

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合や、お使いのソフトウェアなどで指示があった場合には、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をアンインストールします。アンインストール方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「プログラムのアンインストール」 をクリックします。
- 2** 「プログラムのアンインストールまたは変更」と表示されたら、「マカフィーセキュリティセンター」を選択して [アンインストールと変更] をクリックします。
- 3** 「マカフィーソフトウェアを削除」と表示されたら、削除するプログラムを選択し、[削除] をクリックします。
- 4** 「有効な契約が残っています。」と表示されたら、内容を確認し、[削除] をクリックします。
- 5** 「ソフトウェアが削除されました。」と表示されたら、[今すぐ再起動] をクリックします。

コンピューターが再起動したら、アンインストールは完了です。

90 日期間限定版（無料体験版）の期限が来たら


マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版には、一定の有効期間（製品使用開始から 90 日間）が設定されています。

有効期限が切れた場合は、定義ファイルの更新やソフトウェアの自動バージョンアップが行われなくなるため、最新のウイルスやスパイウェアなどの脅威に対応することができなくなり、大変危険です。

90 日期間限定版の有効期限が切れた場合は、有効期限の継続手続きを行うことをおすすめします。更新は有償になります。

更新手続きを行うことにより、最新の脅威に対応できるようになります。

マカフィー・PC セキュリティセンターの再インストール

Windows の再インストールをしたら、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をインストールします。インストール方法は、『別冊』『ユーザーズマニュアル』をご覧ください。

マカフィー製品のサポート

正しく動作しない場合など、マカフィー製品に関するご相談については、下記へお問い合わせください。

※下記の情報は、予告なく変更される場合があります。

● マカフィー・インフォメーションセンター

製品購入前のご相談、お問い合わせ

電話ナビダイヤル : 0570-010-220

IP 電話、光電話の場合: 03-5428-1899

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

● マカフィー・カスタマーサービスセンター

お客様登録情報の確認、変更
製品の購入・返金に関するご相談
製品の有効期限のご確認

マカフィー・サポート Web

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

お問い合わせ Web フォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/cs_email.asp

電話ナビダイヤル : 0570-030-088

IP 電話、光電話の場合: 03-5428-1792

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

● マカフィー・テクニカルサポートセンター

製品のインストール方法
製品の操作方法
製品ご利用後のトラブルに関する技術的なお問い合わせ
ウイルス駆除に関して

マカフィー・チャットサポート

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/tspc_chat.asp

お問い合わせ Web フォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/tspc_email.asp


電話ナビダイヤル : 0570-060-033

IP 電話、光電話の場合: 03-5428-2279

受付時間 9:00 ~ 21:00 (年中無休)

(FAX によるお問い合わせは受け付けておりません)

市販のセキュリティーソフトウェアを使う

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、マカフィー・PC セキュリティーセンター 90 日期間限定版をアンインストール (削除) してください。
 p.52 「マカフィー・PC セキュリティーセンターのアンインストール」

Webフィルタリングソフトウェア

Web フィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Web フィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30 日版を使う

本機には、Web フィルタリング機能を持つ「i-フィルター 30 日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへアクセスするのを制限したいときなどは、i-フィルター 30 日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30 日版のインストール

購入時、i-フィルター 30 日版はインストールされていません。Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールします。ツールは次の場所から起動することができます。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

 『ユーザーズマニュアル』 - 「ドライバー / ソフトウェアのインストール」

市販の Web フィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30 日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30 日版の申し込み

i-フィルター 30 日版を使用するには、申し込みが必要です。申し込みはインターネットに接続した状態で行います。デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックし、表示された画面の指示に従って、申し込みを行ってください。



< i-フィルターアイコン >



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30 日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。

この場合は、「i-フィルター 30 日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30 日版のサポート

i-フィルター 30 日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。なお、この情報は、予告なく変更される場合があります。

<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能



ここでは、本機の省電力機能について説明します。

省電力状態

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような注意事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 -  p.58 「時間経過で移行させない」
 - ・ 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ メモリーカードや外部接続記憶装置（USB HDD など）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ ネットワーク機能を使っでの通信時：通信が切断される可能性
 - ・ 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態で周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する
 -  p.58 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- ディスプレイの電源を切る
省電力の効果はスリープより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- スリープ
作業中の内容を一時的に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

スリープには次の2つがあり、作業中の内容の保存方法が異なります。

- ハイブリッドスリープ（初期値）
スリープと休止状態を合わせた状態です。
作業中の内容はメモリーとHDD/SSDの両方に保存されます。
- スリープ
作業中の内容はメモリーのみに保存されます。

● 休止状態

作業内容をHDD/SSDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

休止状態を有効にする

本機では、休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには設定を行ってください。



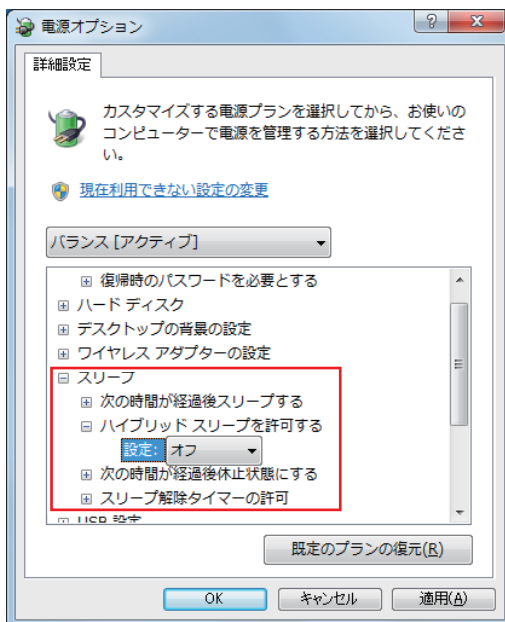
制限

休止状態を有効にすると、スリープの状態がハイブリッドスリープからスリープに変わります。

p.56 「省電力状態の種類」

休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] – [コントロールパネル] – [システムとセキュリティ] – [電源オプション] で、休止状態を有効にしたいプランの「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 2** 「スリープ」 – 「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。
- 3** [OK] をクリックします。



省電力状態に移行する方法

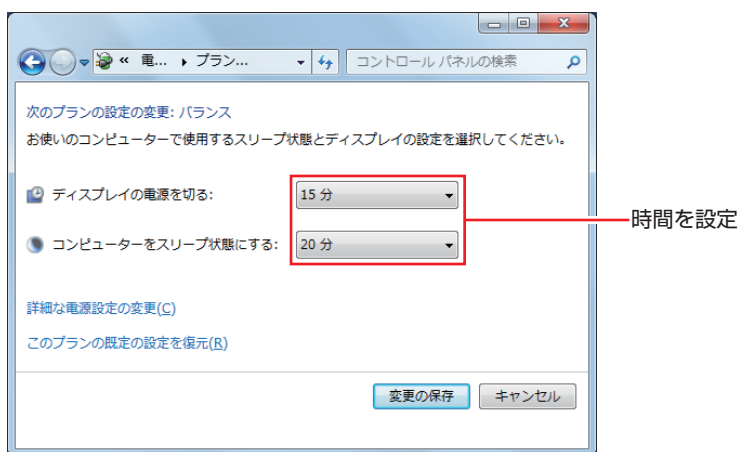
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープになります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアなどに書き込みを行う場合は、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
【スタート】－ [▷] から項目を選択する	スリープ、休止状態*

*購入時は表示されません。


電源ランプの表示




本機の電源の状態は、電源ランプ（）で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常	点灯（青色）
ディスプレイの電源切	点灯（青色）
スリープ	点灯（オレンジ色）
休止状態	消灯
シャットダウン（電源切）	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源切	点灯（青色）	マウスやキーボードを操作する
スリープ	点灯（オレンジ色）	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● USB キーボードを操作する● USB マウスでクリックする● PS/2 キーボードの  キー*を押す
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● PS/2 キーボードの  キー*を押す

* 106 PS/2 コンパクトキーボード（ホットキー付）にのみ搭載されています。
PS/2 キーボードの場合、設定を変更すると、 +  でも起動できます。
設定方法は、 p.14 「PS/2 キーボードからの起動」をご覧ください。

Endeavor 電源プラン設定ツール

本機には節電設定を行うための「Endeavor 電源プラン設定ツール」が添付されています。Endeavor 電源プラン設定ツールでは、3つのおすすめ電源プランや、お客様ご自身で新規に作成するプランの中から、使い方に合った節電プランを設定することができます。詳しくは、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号 : 21091

インストール

Endeavor 電源プラン設定ツールを使用するには、インストールが必要です。購入時は、Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールします。初期設定ツールは次の場所から起動することができます。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

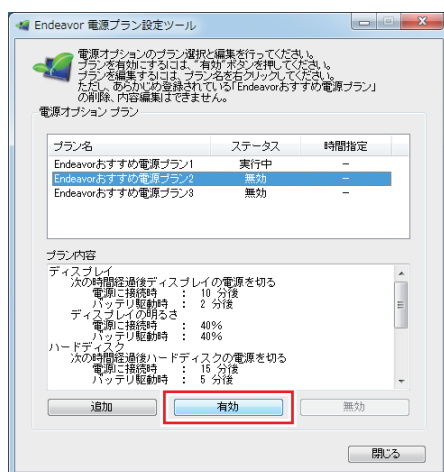
 別冊 『ユーザーズマニュアル』 - 「ドライバー / ソフトウェアのインストール」

プランの変更方法

Endeavor 電源プラン設定ツールをインストールすると、「Endeavor おすすめ電源プラン1」が有効になります。必要に応じて、「Endeavor 電源プラン設定ツール」画面で設定を変更してください。

変更方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「EPSON DIRECT」 - 「Endeavor 電源プラン設定ツール」をクリックします。
- 2 変更したいプランを選んで [有効] をクリックします。



おすすめプランの内容や新規プラン作成方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号 : 21091

そのほかの機能

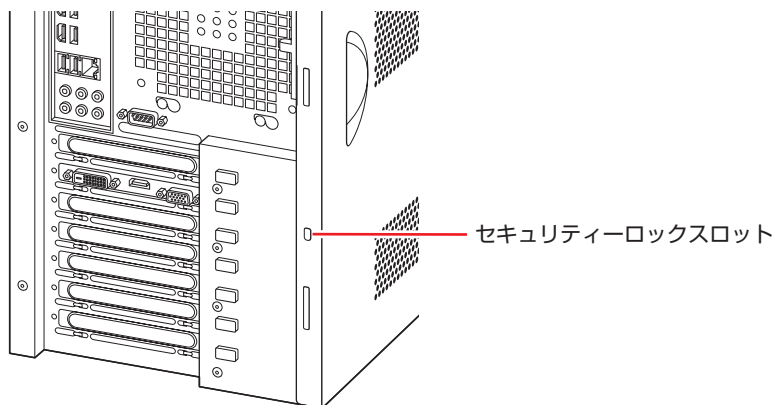
ここでは、そのほかの機能について説明します。

セキュリティー機能

本機には、次のセキュリティー機能が搭載されています。

セキュリティーロックスロット

本機背面には、セキュリティーロックスロットが搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

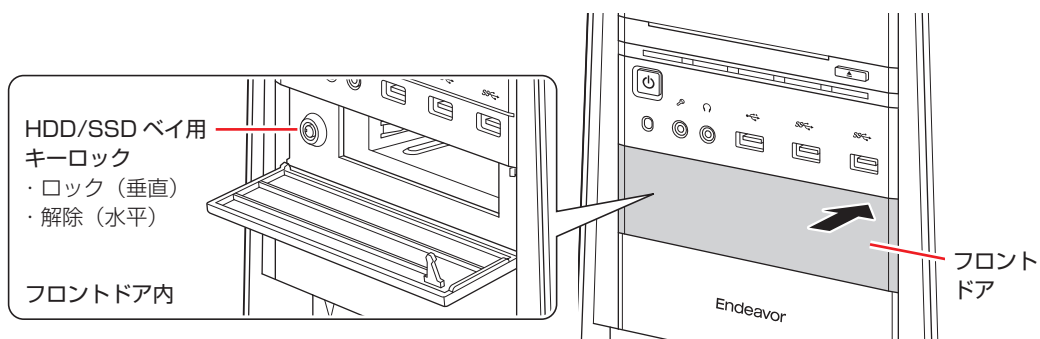
ホームページのアドレスは次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

HDD/SSD ベイ用キーロック


フロントドア内には、HDD/SSD ベイ用キーロックが搭載されており、HDD/SSD の不正持ち出しや盗難の抑止のために、鍵をかけることができます。

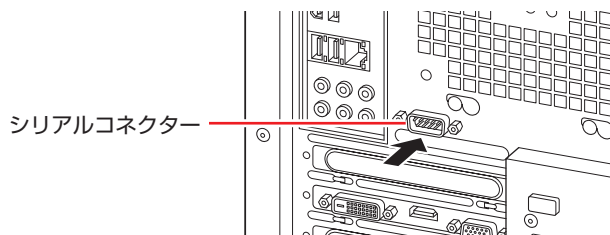
フロントドアは右上の矢印部を押して開けてください。



< HDD/SSD ベイ用キー >


シリアルコネクタ(オプション)

本機購入時にオプション選択された場合、本機背面にはシリアルコネクタ（）が1個搭載されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応した機器（マウスやFAXモデム、ターミナルアダプターなど）を接続します。



本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を変更してください。

「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Serial Port」

 p.65 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.79 「Advanced メニュー画面」

2

UEFI の設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「UEFI」の設定を変更する方法について記載しています。

UEFI の設定を始める前に.....	64
UEFI Setup ユーティリティーの操作.....	65
UEFI Setup ユーティリティーの設定項目.....	78

UEFI の設定を始める前に



制限

当社製以外の UEFI を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の UEFI へのアップデートは絶対に行わないでください。

UEFI は、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。

UEFI の設定は「UEFI Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。UEFI の設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効 / 無効にする場合
- RAID を構成する場合 / 削除した場合

UEFI の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

UEFI Setup ユーティリティで変更した内容は CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

UEFI Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約 3 年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 **別冊** 『ユーザーズマニュアル』 - 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、設定値を戻すことができます。

 p.70 「Load Setup Defaults (UEFI の初期値に戻す)」

 p.71 「Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)」

 p.72 「Load Setup User Defaults (ユーザーの初期設定値に戻す)」

UEFI Setup ユーティリティの操作

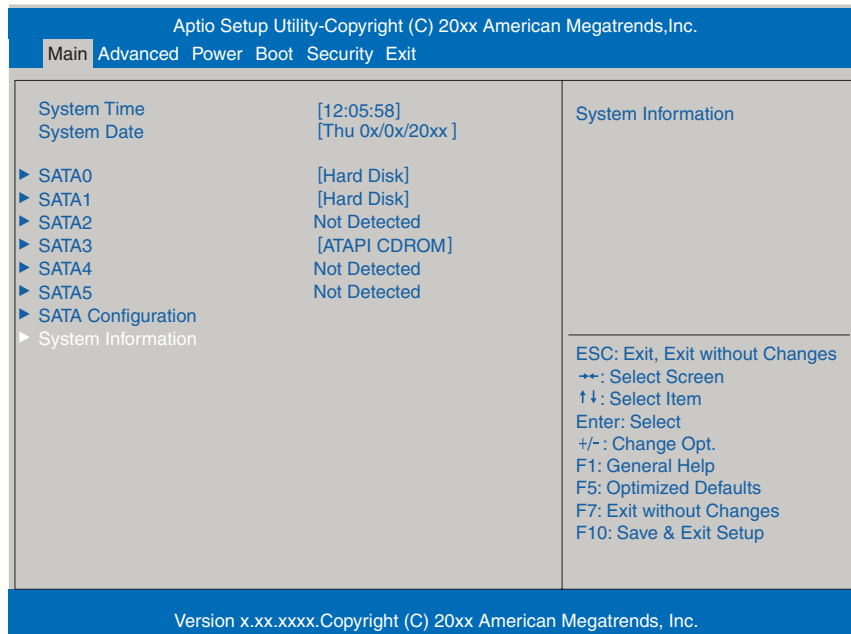
ここでは、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- ユーザーの設定値を保存する
- パスワードを設定する
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

UEFI Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **Delete** の位置を確認してください。**2** では、すばやく **Delete** を押す必要があります。


- 1** 本機の電源を入れます。
すでに Windows が起動している場合は、再起動します。
- 2** すぐに **Delete** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
Windows が起動してしまった場合は、再起動して **2** をもう一度実行してください。
- 3** 「UEFI Setup ユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



< UEFI Setup ユーティリティ画面（イメージ） >

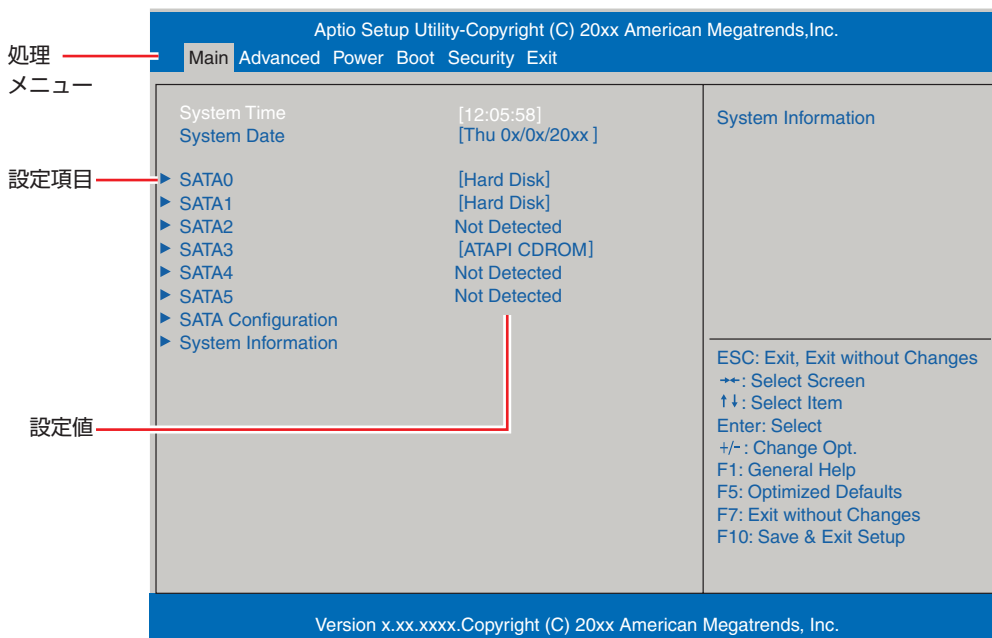
UEFI Setupユーティリティの操作

「UEFI Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.78 「UEFI Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

画面の構成

UEFI Setup ユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。
この画面で設定値を変更することができます。







<メニュー画面>

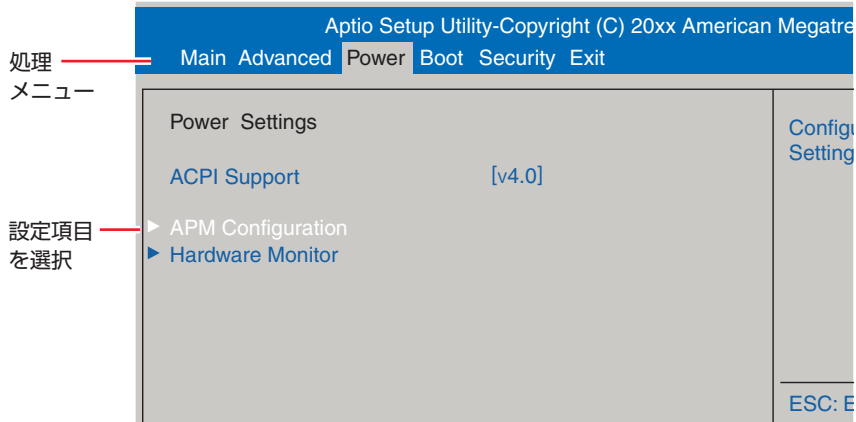
操作方法

UEFI Setup ユーティリティの操作方法是次のとおりです。

- 1 変更したい設定項目のあるメニューを、処理メニューから選択し、設定項目を選択します。




  でメニュー間を移動します。

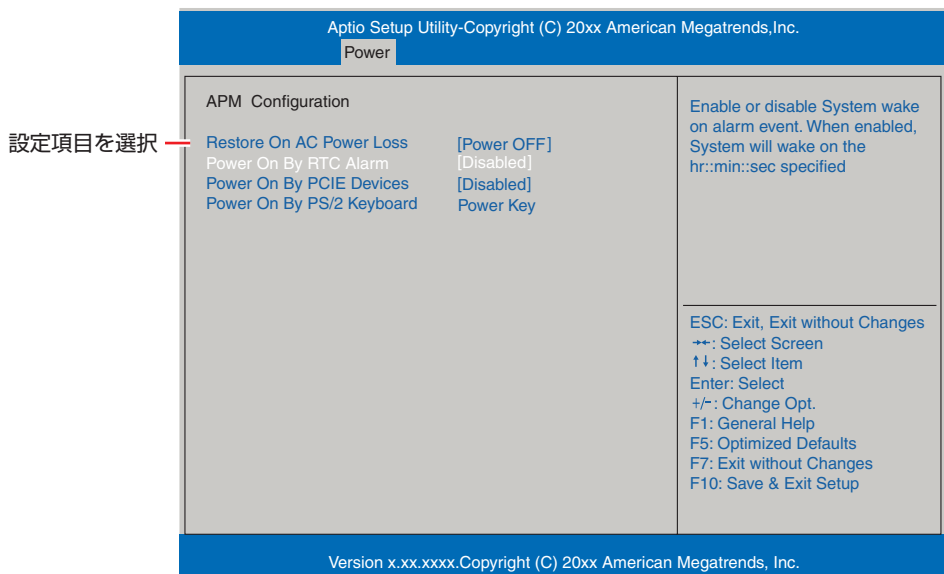
  で設定値を変更したい項目まで移動します。



<メニュー画面>

▶ のある項目の場合

▶ のある項目の場合、 を押すとサブメニュー画面が表示されます。  で設定値を変更したい項目まで移動します。



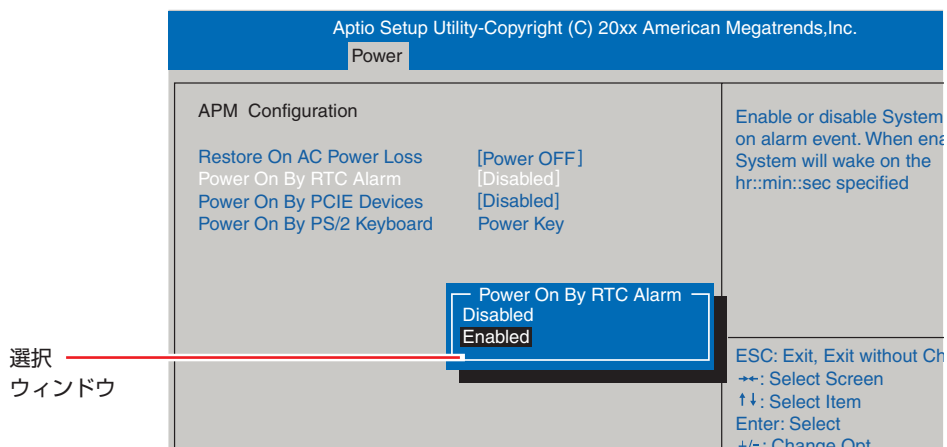
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには  を押します。



2 設定値を変更します。

◀ を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ◀ で決定します。



キー操作

UEFI の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none">変更した内容を破棄し、終了します。サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
◀	<ul style="list-style-type: none">メニュー画面中の ▶ のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。選択項目の選択ウィンドウを表示します。設定値を選択します。
F1	ヘルプを表示します。
F5	全設定項目の値を、UEFI の初期値に戻します。
F7	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

UEFI Setupユーティリティの終了

「UEFI Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、UEFI Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration and Exit?	
Yes	No

- 2 **[Yes]** を選択し、**[↵]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、UEFI Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **[Esc]** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Quit without saving?	
Yes	No

- 2 **[Yes]** を選択し、**[↵]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

設定値を元に戻す

「UEFI Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、設定値をUEFIの初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults (UEFIの初期値に戻す)

設定値をUEFIの初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※ 次の項目の設定値をUEFIの初期値に戻すことはできません。

- 「Main」メニュー画面 – 「SATA Configuration」 – 「Configure SATA As」
- 「Security」メニュー画面

1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面 – 「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults?	
Yes	No

2 **[Yes]** を選択し、**[←]** を押します。
これで設定値が「UEFIの初期値」に戻ります。

Load Setup Defaults 実行後の作業

次の場合は、Load Setup Defaults を実行したあとに、UEFIの設定値を設定しなおしてください。

シリアルコネクタ（オプション）が搭載されている場合

シリアルコネクタの機能を有効にします。

「Advanced」メニュー画面 – 「Onboard Devices Configuration」 – 「Serial Port」を「3F8/IRQ4」に設定してください。

拡張ボードを装着している場合

ボードによっては、UEFIの設定値を変更する必要があります。ボードのマニュアルでご確認ください。

設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.69 「Exit & Save Changes（変更した内容を保存し終了する）」

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

設定値を前回保存した値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F7** を押す、または「Exit」メニュー画面 - 「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Previous Values ?	
Yes	No

- 2 **[Yes]** を選択し、**↵** を押します。
これで設定値が「前回保存した値」に戻ります。

ユーザー設定値を保存する

「UEFI Setup ユーティリティ」の設定値を変更した場合、その状態を「ユーザー設定値」として保存しておくことができます。ユーザー設定値を保存しておくことで、「Load Setup Defaults」やリチウム電池の脱着を行って、設定値が「UEFIの初期値」になってしまった場合などに、「ユーザー設定値」に戻すことができます。

Save as User Defaults (ユーザー設定値を保存する)

設定値を「ユーザー設定値」として保存する方法は、次のとおりです。

- 1 UEFI Setup ユーティリティの設定値を変更します。
- 2 「Exit」メニュー画面 - 「Save as User Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save Values as User Defaults	
Save configuration?	
Yes	No

- 3 **[Yes]** を選択し、**↵** を押します。
これで設定値が保存されます。


Load Setup User Defaults (ユーザーの初期設定値に戻す)

設定値を「ユーザー設定値」に戻す方法は、次のとおりです。

※「Save as User Defaults」で設定値を保存後、実行可能になります。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Load Setup User Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Restore User Defaults	
Restore User Defaults?	
Yes	No

- 2 「Yes」を選択し、 を押します。
これで設定値が「ユーザー設定値」に戻ります。

パスワードを設定する


「Security」メニュー画面でパスワードを設定すると、UEFI や Windows の起動時にパスワードを要求されるようになります。

パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDD/SSD アクセス制限の設定など)

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでUEFIにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでUEFIにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます(権限は、設定変更することができます)。
 p.73 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法を説明します。



設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、UEFIの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。

管理者パスワードの設定

管理者パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードや HDD/SSD アクセス制限などが設定できるようになります。


- 1 「Security」メニュー画面－「SuperVisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

— Create New Password —


- 2 パスワードを入力し、 を押します。

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 8 文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

— Confirm New Password —


同じパスワードを入力しないと、「Invalid Password」という ERROR メッセージが表示されます。[OK] が選択された状態で  を押すと、UEFI のメニュー画面に戻ります。この場合、**1** からやりなおしてください。

これでパスワードの設定は完了です。


「SuperVisor Password」項目の値が「Installed」に変わります。

パスワード入力タイミングの設定

UEFI Setup ユーティリティ起動時や、Windows 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.82 「Security メニュー画面」－「Password Check」

ユーザーパスワードの設定

ユーザーパスワードは、 p.73 「管理者パスワードの設定」－ **1** で「User Password」を選択し、管理者パスワードと同様の手順で設定します。

ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードで UEFI にログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。


 p.82 「Security メニュー画面」－「User Access Level」

パスワードの削除方法

パスワードの削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでUEFIにログオンしてください。

※ HDD/SSD アクセス制限やユーザーパスワードを設定している場合、管理者パスワードを削除すると、自動的にHDD/SSD アクセス制限やユーザーパスワードも削除（解除）されます。

- 1 「Security」メニュー画面－「SuperVisor Password」あるいは「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Current Password

- 2 設定しているパスワードを入力して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Create New Password

- 3 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

WARNING	
Clear Old Password. Continue?	
Yes	No

- 4 「Yes」を選択し、 を押します。

「SuperVisor Password」または「User Password」項目の表示が「Not installed」に変わります。

これでパスワードが削除されました。

管理者パスワードを削除すると、パスワード設定時に表示された項目は非表示になります。

※ HDD アクセス制限は、一度シャットダウンしないと正常に解除できません。

 p.75 「HDD/SSD アクセス制限の設定方法」

HDD/SSDアクセス制限

HDD/SSD アクセス制限を設定すると、次の状態になります。

- UEFI や Windows 起動時、休止状態からの復帰時にパスワードを要求される
- HDD/SSD をほかのコンピューターに接続した場合、認識されなくなる

HDD/SSD への無断アクセスや、万が一 HDD/SSD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD/SSD アクセス制限を設定します。

HDD/SSD アクセス制限の設定方法



HDD/SSD アクセス制限の設定方法は次のとおりです。

！ 制限

- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD/SSD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- HDD/SSD を増設・交換する際は、HDD/SSD へのアクセス制限を解除した状態で行ってください。

設定方法

HDD/SSD アクセス制限の設定方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD/SSD アクセス制限は設定できません。
必ずシャットダウンしてから設定を行ってください。
- 2** 本機の電源を入れ、「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
 p.65 「UEFI Setup ユーティリティの起動」
- 3** 管理者パスワードを設定します。
 p.72 「パスワードの設定方法」
- 4** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。
 p.82 「Security メニュー画面」
- 5** **F10** を押して、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
 p.69 「UEFI Setup ユーティリティの終了」
- 6** Windows が起動したら、本機の電源を切ります。
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

解除方法

HDD/SSD アクセス制限の解除方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD/SSD アクセス制限は設定できません。
必ずシャットダウンしてから設定を行ってください。
- 2** 本機の電源を入れ、「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
 p.65 「UEFI Setup ユーティリティの起動」
- 3** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。
 p.72 「パスワードの設定方法」
- 4** **F10** を押して、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
 p.69 「UEFI Setup ユーティリティの終了」



5 Windows が起動したら、本機の電源を切ります。

最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

起動(Boot)デバイスの順番を変更する

本機の電源を入れて起動しようとしたときに、USB 記憶装置（USB フラッシュメモリーや USB HDD など）を接続していたり、USB FDD に FD がセットされていたりすると、Windows が起動しないことがあります。

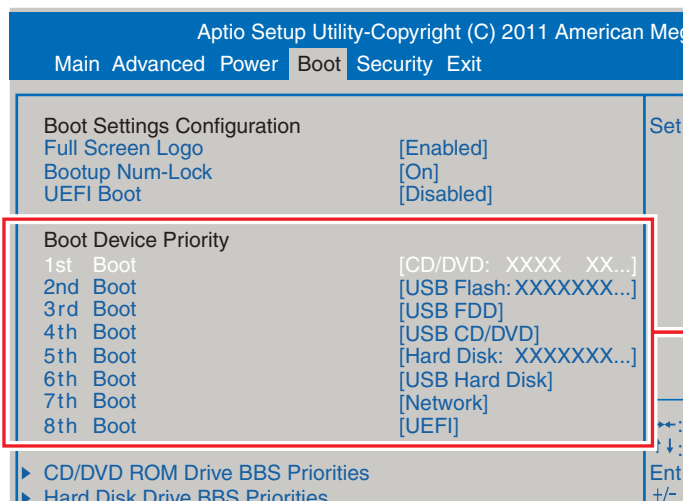
このような場合、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（OS）から起動します。

起動デバイスの順番は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で設定されています。

 p.85 「Boot メニュー画面」



この順番にデバイスを検出して起動します。

<イメージ>

順番の初期値は次のとおりです。

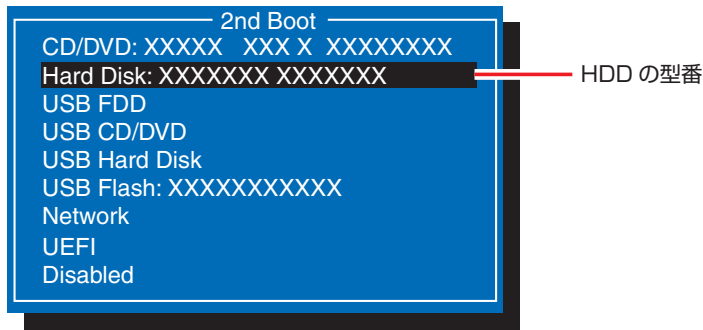
- 1 番目：CD/DVD
- 2 番目：USB Flash
- 3 番目：USB Floppy
- 4 番目：USB CD/DVD
- 5 番目：Hard Disk
- 6 番目：USB Hard Disk
- 7 番目：Network
- 8 番目：UEFI

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法


起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動できるように、2 番目に起動するドライブを HDD に設定する方法を説明します。

- 1 「Boot」メニュー画面で「2nd Boot」を選択し、**←** を押します。
- 2 選択ウィンドウが表示されたら、**↑** **↓** で「Hard Disk : XXX...」を選択し、**←** を押します。

HDD の順番が 2 番目になります。



<選択ウィンドウ>

- 3 **F10** を押して UEFI Setup ユーティリティを終了します。
 p.69 「UEFI Setup ユーティリティの終了」
これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOSモードとUEFIモード

本機は、Windows 7 が動作するよう、BIOS モードに設定されています。

- 「Boot」メニュー画面 - 「UEFI Boot」 : [Disabled]
- 「Boot」メニュー画面 - 「CSM parameters」 - 「Launch CSM」 : [Enabled]
- 「Security」メニュー画面 - 「Secure Boot」 : [Disabled]

Windows 8 などの OS は、UEFI モードで使用します。

- 「Boot」メニュー画面 - 「UEFI Boot」 : [Enabled]
- 「Boot」メニュー画面 - 「CSM parameters」 - 「Launch CSM」 : [Disabled]
- 「Security」メニュー画面 - 「Secure Boot」 : [Enabled]

※ Windows 8 などの OS を BIOS モードで使用した場合は、使用できない機能があります。

<使用できない機能例>

- Secure Boot
- Seamless Boot


UEFI Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。UEFI Setup ユーティリティには、次の6つのメニューがあります。

- Main メニュー画面
日時やドライブの設定を行います。
- Advanced メニュー画面
CPU やマザーボード上のデバイスの設定を行います。
- Power メニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Boot メニュー画面
システムの起動 (Boot) に関する設定を行います。
- Security メニュー画面
セキュリティに関する設定を行います。
- Exit メニュー画面
UEFI Setup ユーティリティを終了したり、UEFI の設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日時やドライブの設定を行います。設定項目は、次のとおりです。

 は初期値
*は項目表示のみ

System Information	本機のシステム情報が表示されます。
* UEFI Version	UEFI のバージョン
* Build Date	UEFI のバージョンの制定日
* Installed Memory	本機に搭載されているメモリー容量
* Memory Speed	メモリーの動作周波数
System Time	時刻を設定します。(時間 : 分 : 秒)
System Date	日付を設定します。(曜日 月 / 日 / 年)
Port0 ~ 5	本機に搭載されているドライブの設定をします。 ※表示される詳細項目は、ドライブにより異なります。
* Device	ドライブの種類
* Vender	ドライブの型番
* Size	HDD/SSD の容量
* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) の状態
Type	ドライブを使用するかどうかを設定します。 Auto : 使用します。 Not Installed : 使用しません。
SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のままで使用します。

SATA Configuration	シリアル ATA HDD/SSD のモードを設定します。
Configure SATA As	シリアル ATA HDD/SSD の動作モードを設定します。 購入時の選択によって、設定値は異なります。 ※設定値は、UEFI の初期化や CMOS RAM の初期化をしても保持されます。 Standard IDE：設定すると、HDD がスタンダードモードで動作します。 RAID：RAID モデルの場合の設定値です。 AHCI：RAID モデル以外の場合の設定値です。
Standard IDE Mode ※「Configure SATA As」 を「Standard IDE」 に設定すると表示され ます。	初期値のままで使用します。

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPU やマザーボード上のデバイスの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

CPU Configuration	本機に搭載されている CPU の設定をします。
* Manufacturer	CPU のメーカー
* Brand String	CPU の型番
* Frequency	CPU の周波数
* FSB Speed	FSB の周波数
* Cache L1	CPU の L1 キャッシュ容量
* Cache L2	CPU の L2 キャッシュ容量
* Cache L3	CPU の L3 キャッシュ容量
* Ratio Status	CPU クロックの設定値
* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率
Hyper Threading Technology ※機能を持つ CPU 搭載時 のみ表示されます。	ハイパースレッディング機能の有効 / 無効を設定します。 Enabled：有効にします。 Disabled：無効にします。
Virtualization Technology ※機能を持つ CPU 搭載時 のみ表示されます。	Intel Virtualization Technology の有効 / 無効を設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。
Turbo Boost ※機能を持つ CPU 搭載時 のみ表示されます。	ターボブースト機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。
EIST	省電力機能 EIST (Enhanced Intel Speedstep Technology) の有効 / 無効 を設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。
xbit	メモリ保護機能 xbit の有効 / 無効を設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。

CPU 1 ~ 6Core Ratio	稼働しているコア数での倍率を設定します。 ※出荷時設定を上回る値を設定した場合は動作保証の対象外となります。
Onboard Devices Configuration	マザーボード上のデバイスの設定をします。
Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled：使用しません。 Enabled：使用します。
Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled：使用しません。 Enabled：使用します。
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。
Serial Port	シリアルポート（オプション）のアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled：シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3
USB Configuration	USB コントローラーの設定をします。
USB Function	マザーボード上の USB 機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled：使用しません。 Enabled：使用します。 ※マルチカードリーダー（オプション）は内部 USB 接続のため、「Disabled」に設定すると、使用できなくなります。
Legacy USB Support	初期値 [Enabled] のままで使用します。
Onboard USB 3.0 Controller	マザーボード上の USB3.0 機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。
USB Mass Storage Device Config	マルチカードリーダー（オプション）にメモリーカードをセットすると、メモリーカードの型番が表示されます。

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

APM Configuration	本機の起動に関する設定をします。
Restore On AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power OFF：電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power ON：電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。 Last State：コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。

Power On By RTC Alarm	コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled: 設定しません。 Enabled: 設定します。
RTC Alarm Date/Hour/Minute/Second ※「Power On By RTC Alarm」を [Enabled] に設定	起動する日時を設定します。 起動日を毎日にした場合は、「RTC Alarm Date」を「0」に設定します。
Power On By PCIE Devices	PCIE 接続のボードを増設した場合に、Wakeup 機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled: 無効にします。 Enabled: 有効にします。
Resume By Onboard LAN	シャットダウンや休止状態の本機を、ネットワークから起動するかどうかを設定します。 Disabled: 設定しません。 Enabled: 設定します。
Power On By PS/2 Keyboard	PS/2 キーボードを使用している場合に、起動 / 復帰をキーボードで行えるようにするかどうかを設定します。 Ctrl + ESC: [Ctrl] + [Esc] を使用します。 Power Key: 106 PS/2 コンパクトキーボード (ホットキー付) の場合、Power キー (⏻) を使用します。 Disabled: 設定しません。
Fan Control	ファンの制御をします。
CPU Fan Control	初期値のままで使用します。
SYS Fan Control	初期値のままで使用します。

Bootメニュー画面


「Boot」メニュー画面では、システムの起動 (Boot) に関する設定を行います。
Boot 順番の変更方法については、[👉 p.76 「起動 \(Boot\) デバイスの順番を変更する」](#)をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
*は項目表示のみ

Boot Settings Configuration	コンピューター起動時の設定をします。
Full Screen Logo	コンピューター起動時にロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled: 表示しません。 Enabled: 表示します。
Bootup Num-Lock	DOS 起動時の NumLock の状態を設定します。 Off: NumLock が押されていない状態にします。 On: NumLock が押された状態にします。
UEFI Boot	Windows 7 の場合は、初期値 [Disabled] で使用します。
CSM parameters	CSM モード時のパラメーター設定をします。
*Launch CSM	CSM の状態が表示されます。 「UEFI Boot」を「Enabled」に設定すると設定変更が可能になります。
Boot option filter	初期値のままで使用します。
Launch Storage OpROM policy	初期値のままで使用します。

Launch Video OpROM policy	初期値のまま使用します。
Other PCI device ROM priority	初期値のまま使用します。
Boot Device Priority	ドライブの起動順番を設定します。
1st Boot	1 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：CD/DVD
2nd Boot	2 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：USB Flash
3rd Boot	3 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：USB FDD
4th Boot	4 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：USB CD/DVD
5th Boot	5 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：Hard Disk
6th Boot	6 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：USB Hard Disk
7th Boot	7 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：Network
8th Boot	8 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：UEFI
CD/DVD ROM Drive BBS Priorities	光ディスクドライブの起動順番が表示されます。
1st Boot ...	光ディスクドライブの起動順番
Hard Disk Drive BBS Priorities	HDD の起動順番が表示されます。
1st Boot ...	HDD の起動順番
Network Drive BBS Priorities ※リモートブート機能を有効にすると表示されます。	ネットワークの起動順番が表示されます。
1st Boot ...	ネットワークの起動順番

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、セキュリティーに関する設定を行います。
パスワードの設定方法は、 p.72 「パスワードを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

 は購入時の状態

*は項目表示のみ

* SuperVisor Password/User Password	SuperVisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかが表示されます。 Installed : パスワードが設定されています。 Not installed : パスワードが設定されていません。
-------------------------------------	--

Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。
User Access Level ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	<p>「User Password」(ユーザーパスワード)で「UEFI Setup ユーティリティ」にアクセスするときのアクセスレベルを設定します。</p> <p>No Access : ユーザーパスワード使用者は「UEFI Setup ユーティリティ」を起動することができません。</p> <p>View Only : ユーザーパスワード使用者は「UEFI Setup ユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。</p> <p>Limited : 「UEFI Setup ユーティリティ」を閲覧できるほか、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。</p> <p>Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「UEFI Setup ユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。</p>
User Password ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。
Password Check ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	<p>管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。</p> <p>Setup : 「UEFI Setup ユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。</p> <p>Always : 「UEFI Setup ユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。</p>
Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	<p>HDD/SSD へのアクセス制限の有効 / 無効を設定します。アクセス制限を有効に設定した HDD/SSD は、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。</p> <p>有効に設定すると、UEFI、システムへのアクセスが制限され、UEFI 起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。</p> <p>Disabled : HDD/SSD へのアクセスを制限しません。</p> <p>Enabled : HDD/SSD へのアクセスを制限します。</p> <p>※ HDD/SSD アクセス制限を設定 / 解除する場合は、必ず本機を一度シャットダウンしてから行ってください。また、設定 / 解除後にも本機をシャットダウンしてください。</p>
Secure Boot	セキュアブートの設定をします。
*System Mode State	<p>システムモードの状態が表示されます。</p> <p>User : セキュアブートのキーが適用されています。</p> <p>Setup : セキュアブートのキーが適用されていません。</p>
*Secure Boot State	セキュアブートの状態が表示されます。
Secure Boot	<p>セキュアブートの設定をします。</p> <p>Windows 7 の場合は、購入時の状態 [Disabled] で使用します。</p>

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、UEFI Setup ユーティリティを終了したり、UEFI の設定値を初期値に戻したりします。

設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	UEFI Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	UEFI Setup ユーティリティの設定値を、UEFI の初期値に戻します。 ※次の項目の設定値を UEFI の初期値に戻すことはできません。 <ul style="list-style-type: none">• 「Main」メニュー画面 – 「SATA Configuration」 – 「Configure SATA As」• 「Security」メニュー画面
Save as User Default	UEFI の設定値をユーザー設定値として保存します。
Load Setup User Defaults ※ 「Save as User Default」 で設定値を保存後、実行可能になります。	設定値をユーザー設定値に戻します。

UEFIの設定値

UEFI Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくことと便利です。ユーザー設定値は、保存しておくこともできます。👉 p.71 「ユーザー設定値を保存する」

Main メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Port0 ~ 5	Type	Auto	Not Installed	Auto	Not Installed
	LBA/Large Mode	Auto	Disabled	Auto	Disabled
	Block Mode	Auto	Disabled	Auto	Disabled
SATA Configuration	Configure SATA As	Standard IDE	RAID AHCI	Standard IDE	RAID AHCI

Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Hyper Threading Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Virtualization Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Turbo Boost	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	EIST	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	xbit	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard Devices Configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Serial Port	Disabled		Disabled	
USB Configuration	USB Function	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard USB 3.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

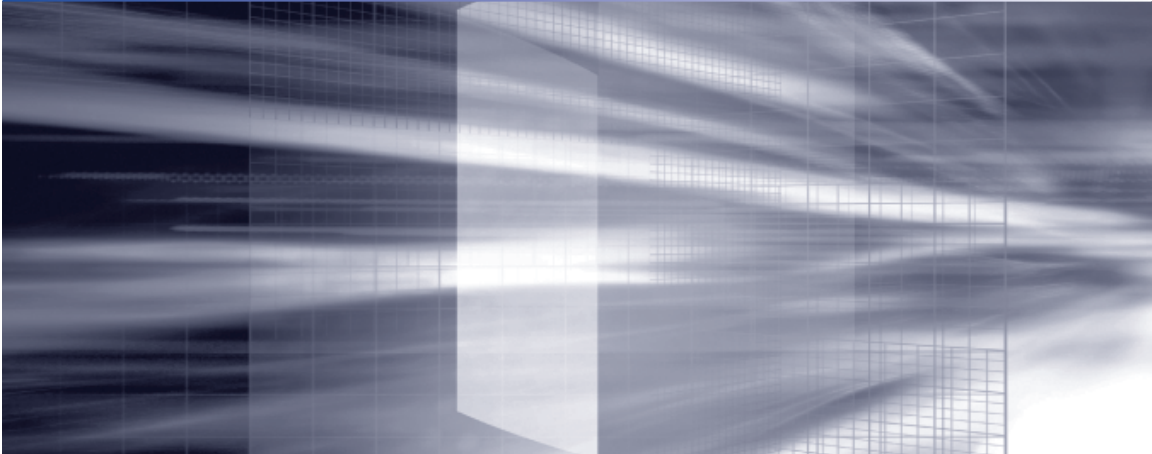
項 目		購入時の設定		変更内容	
APM Configuration	Restore On AC Power Loss	Power OFF Power ON Last State		Power OFF Power ON Last State	
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCIE Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Resume By Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PS/2 Keyboard	Disabled Ctrl + ESC Power Key		Disabled Ctrl + ESC Power Key	

Boot メニュー画面

項 目	購入時の設定		変更内容	
Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On
1st Boot				
2nd Boot				
3rd Boot				
4th Boot				
5th Boot				
6th Boot				
7th Boot				
8th Boot				

Security メニュー画面

項 目	購入時の設定		変更内容	
Supervisor Password	Not installed	Installed	Not installed	Installed
User Password	Not installed	Installed	Not installed	Installed
User Access Level	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
Password Check	Setup	Always	Setup	Always
Hard Disk Protection	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled



付録

本機のお手入れ方法やHDD/SSD 領域の変更方法などについて記載しています。

お手入れ.....	88
HDD/SSD 領域の変更.....	89
コンピューターを廃棄するときは.....	93

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。

通風孔

通風孔にホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。
定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアースプレーで吹き飛ばしてください。



- 本機のカバーを開けるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグを接続したまま作業すると、感電や火傷の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。けがや感電・火災の原因となります。



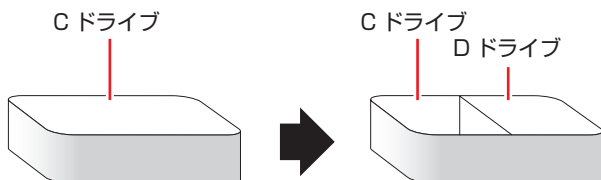
- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。水分や化学物質により故障の原因となります。

HDD/SSD 領域の変更

ここでは、HDD/SSD 領域の変更方法について説明します。

HDD/SSD領域を分割して使用する(概要)

HDD/SSD 領域は、いくつかに分割して使用することができます。分割したひとつひとつの領域を「パーティション」と言います。また、Windows で使えるように作成した領域を「ドライブ」と言います。



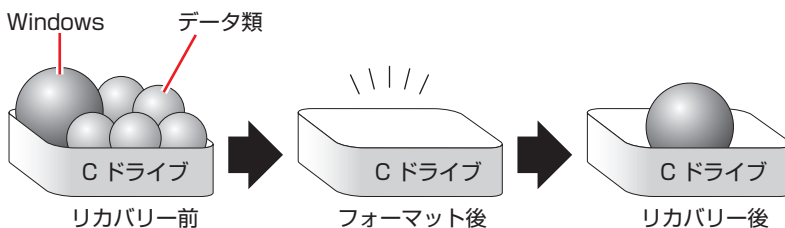
HDD/SSD 領域分割のメリットとデメリット

HDD/SSD 領域を分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。HDD/SSD 領域を分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

メリット

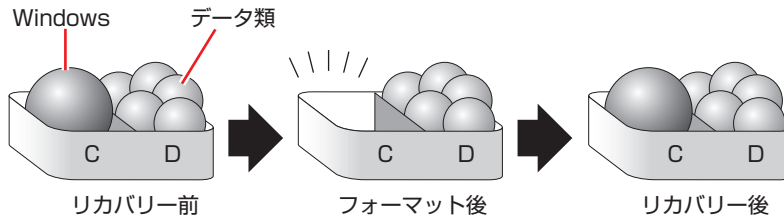
HDD/SSD 領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、Windows の再インストール(リカバリー)時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

HDD/SSD 領域が 1 つの場合



リカバリーを行うと、C ドライブのデータはすべて消去されます。

HDD/SSD 領域を分割した場合



たとえば、Windows やソフトウェアは C ドライブに、作成したデータなどは D ドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリーを行うと、消去されるのは C ドライブのみとなるため、D ドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。

！ 制限

リカバリーを行うときは、万が一に備え、C ドライブ以外のドライブの重要なデータもバックアップしておくことをおすすめします。

デメリット

- HDD/SSD 領域変更の際、ドライブを削除すると、ドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD/SSD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

HDD/SSD領域の変更(拡張/縮小/削除/作成)

HDD/SSD 領域の変更は、Windows の「ディスクの管理」で行います。C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) の領域変更も、「ディスクの管理」で行うことができます。

👉 参考

Windows の再インストール中に領域変更する

HDD/SSD 領域の変更は、Windows の再インストール中に行うこともできます。

📖 別冊 『ユーザーズマニュアル』 - 「Windows のインストール」

ドライブの作成は、「ディスクの管理」で行ってください。

！ 制限

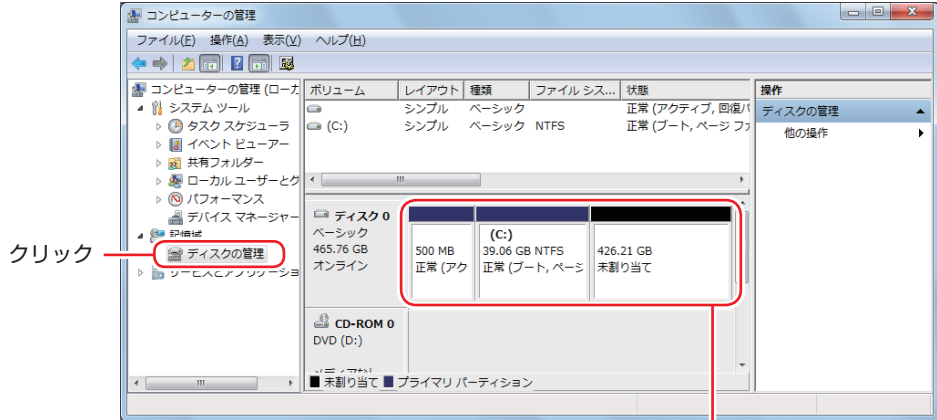
- 作業の前に、重要なデータは外付け HDD などにバックアップしてください。
- 拡張は、ドライブのすぐ後ろ (右隣) に「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。
- 縮小できるサイズには限界があります。
- C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) は削除できません。
- ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。
- 作成は、「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。

HDD/SSD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）方法は、次のとおりです。

1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「システムとセキュリティ」 – 「管理ツール」 – 「コンピューターの管理」 – 「ディスクの管理」を開きます。

新しいHDD/SSDを装着した場合は、「ディスクの初期化」画面が表示されます。2TBを超える容量のHDDの場合は、「ディスクの初期化」画面のパーティションスタイルで「GPT」を選択してください。[OK]をクリックして、ディスクの初期化を行ってください。

※ HDD容量が2TBを超える場合は、「GPT」を選択しないと使用できません。



<イメージ> HDD/SSD 領域の状態

2 HDD/SSD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）を行います。

ドライブを拡張する場合

- 1 拡張するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの拡張」をクリックします。
- 2 「ボリュームの拡張ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ディスクの選択」と表示されたら、「ディスク領域 (MB) を選択」で拡張する容量を入力し、[次へ] をクリックします。
- 4 「ボリュームの拡張ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
ドライブが拡張され、ドライブの容量が増えます。

ドライブを縮小する場合

- 1 縮小するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの縮小」をクリックします。
- 2 「(ドライブ文字) の縮小」画面が表示されたら、「縮小する領域のサイズ」を入力し、[縮小] をクリックします。
ドライブが縮小され、「未割り当て」領域が増えます。
※ C ドライブの目安：120GB (120000MB) 以上

ドライブを削除する場合

- 1 削除するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。
- 2 「・・・続行しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。
ドライブが削除され、「未割り当て」領域が増えます。

ドライブを作成する場合

- 1 「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。
- 2 「新しいシンプルボリュームウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 4 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 5 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、ドライブが使用できるようになります。

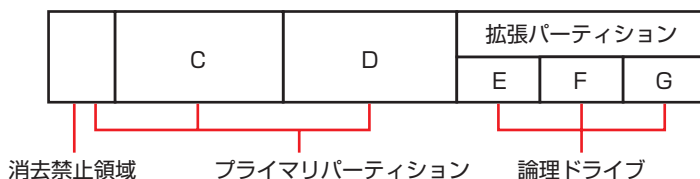


参考

●容量が2TB以下のHDD/SSDのパーティション

- パーティションスタイルは「MBR」です。
- パーティションの種類は、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDD/SSDに作成できるパーティションは最大で4つです。
- 「消去禁止領域」もパーティションの1つです。
- パーティションを作成すると、自動的に3つ目まではプライマリパーティションとなり、4つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>



●容量が2TBを超えるHDDのパーティション

- パーティションスタイルは「GPT」です。
- パーティションの種類は、「プライマリパーティション」のみです。
- 作成できるパーティションの数は、128です。

コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄する際の注意事項や、HDD/SSD のデータ消去方法について説明します。
パソコン回収サービスについては、下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

コンピューターの廃棄・譲渡時のHDD/SSD上のデータ消去に関するご注意

コンピューターは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピューターの中のHDD/SSDという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのコンピューターを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このHDD/SSD内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ 付属のリカバリー CD/DVD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、HDD/SSD内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このコンピューターのHDD/SSD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

コンピューターユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、HDD/SSD上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、HDD/SSDに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（有償）を利用するか、HDD/SSD上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、HDD/SSD上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくコンピューターを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

HDD/SSDのデータを消去する

本機を廃棄する前に HDD/SSD のデータを消去してください。

ドライバー CD に収録されている「システム診断ツール」では、HDD/SSD 内のデータをすべて消去することができます。

消去を開始すると、HDD/SSD のデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。



データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD/SSD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

消去されるデータ

HDD/SSD を複数搭載している場合

この機能で消去できるデータは、Port0 (SATA1) の HDD/SSD のデータのみです。そのほかの HDD/SSD のデータを消去したいときは、HDD/SSD を Port0 のベイへ入れ替えてからデータの消去を行ってください。

『ユーザーズマニュアル』 - 「HDD/SSD の装着」



RAID を構成している場合

RAID を構成しているすべての HDD/SSD のデータが消去されます。

データの消去

HDD/SSD 内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、ドライバー CD を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▷] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4** + を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して を押します。

7 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8 キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。
消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間は容量によって異なります（40GBのHDDで約30分）。

9 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、ドライブCDを光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。
これでデータの消去は完了です。

エプソンダイレクト ユーザーサポートページ

www.epsondirect.co.jp/support/